

取扱説明書及び部品表

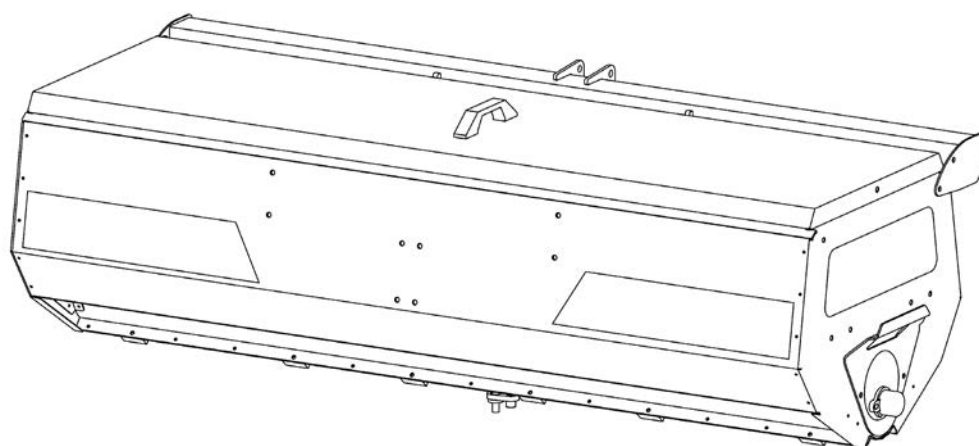
Takakita

MixTM-7

MX1601

MX1801

MX2201



本製品を安全に、また正しくお使いいただくために
必ず本取扱説明書をお読みください。
お読みになった後も大切に保管してください。
本取扱説明書はお手持ちのスマートフォンや
タブレットからアクセスすることができます。



株式会社 **タカキタ**

は じ め に

このたびは本製品をお買い上げいただき、ありがとうございました。

この取扱説明書は、**M i x ソーワ**の取扱方法と使用上の注意事項について記載しております。
ご使用前には必ず、この取扱説明書を熟知するまでお読みのうえ、正しくお取扱いただき、
最良の状態でご使用ください。

- お読みになったあとも必ず製品に近接して保管してください。
- 製品を貸与または譲渡される場合は、この取扱説明書を製品に添付してお渡しください。
- この取扱説明書を紛失または損傷された場合は、速やかにお買い上げの販売店または当社にご注文ください。
- 本書は、**注意**として、製品自体の損傷防止に関する留意事項を書いております。
- なお、品質・性能あるいは安全性の向上のため、使用部品の変更を行うことがあります。その際には、お手元の製品と本書の内容が一致しない場合もありますので、あらかじめご了承ください。
- ご不明な点やお気付の点がございましたら、お買い上げの販売店または当社にご相談ください。

⚠ 警 告 サ イ ン



印付きの下記マークは安全上、特に重要な項目ですので、よく読んで必ずお守りください。

⚠ 危険

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。

⚠ 警告

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。

⚠ 注意

その警告に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるものを示します。

目 次

 安全に作業するために	1
本製品の使用目的とサービスについて	16
各部の名称とはたらき	17
トラクタへの装着	19
1. 3点リンケージへの装着のしかた	19
2. ユニバーサルジョイントの取付け	19
3. オートヒッチの装着のしかた	19
4. コントロールボックスの装着のしかた	21
運転に必要な装着の取扱い	23
1. 電動シャッターの取扱い	23
2. P T O連動の取扱い	23
作 業 方 法	24
1. 作業手順と要点	24
2. 移動をするときは	25
3. 肥料について	26
4. ホッパーに肥料を投入するときは	26
5. 肥料を混合するときは	26
6. 散布作業の方法について	27
7. 傾斜地での作業	27
作業前の点検について	29
1. 点検一覧表	29
簡単な手入れと処置	30
1. 日常の管理について	30
2. 長期格納時の手入れ	30
3. コネクタの保管と清掃について	31
4. 各部への注油・グリスアップ	32
5. シェアボルトの交換	32
6. センサの調整	33
不 調 診 断	34
付 表	35
1. 主要諸元	35
2. 主な消耗部品	35
3. 回路図	36

⚠ 安全に作業するために

取扱説明書と本機に貼ってある⚠ 表示ラベルをよく読み、機械の使い方をよく理解したうえで使用してください。また、機械を点検して異常がないかを確認してから使用してください。

機械を人に貸すとき、または所有者以外が運転するときは、運転方法を指導し、本書も貸与し必ず読んでもらってください。

1. 本機を使用するにあたって

(1) 使用する人の条件

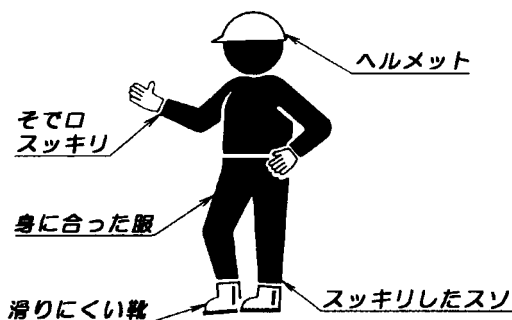
次の項目に該当する場合は本機を使用しないでください。

- 飲酒したとき。
- 過労・病気・薬物の影響・その他の理由により正常な運転ができないとき。
- 妊娠しているとき。
- 取扱方法を熟知していない人。



(2) 使用する人の服装

機械に巻き込まれたり、滑って転倒したりする事故を予防するため、首巻き・腰タオルをしないで、ヘルメット・滑り止めの付いた靴を着用し、だぶつきのない作業に適した服装で安全な作業をしてください。



(3) 適応トラクタ以外への装着厳禁

下記の装着条件に合致するトラクタ以外には装着しないでください。

● 適応トラクタ

型 式	適用馬力 kW(PS)
MX1601	14.7～29.4(20～40)
MX1801	18.4～36.8(25～50)
MX2201	22.0～44.1(30～60)

● 3点リンケージ規格：

MX1601：カテゴリ 0・I
MX1801：カテゴリ I・II
MX2201：カテゴリ I・II

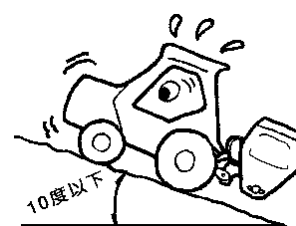
● PTO回転速度：540min⁻¹(rpm)

(4) 積載量の厳守

本機は、積載量を限定しています。表示以上の積み過ぎは危険です。

型 式	積載量(kg)	
	平 地	傾斜地 (10度以下)
MX1601	270	220
MX1801	310	250
MX2201	380	300

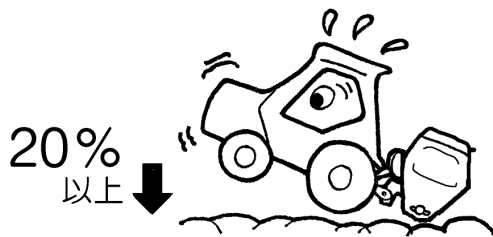
最大積載量を超えない場合でも、本機への負荷が高い肥料の場合は、本機損傷の原因になります。



⚠ 安全に作業するために

(5) 装着時の前後のバランス確認

3点リンケージに装着して持ち上げたときに、総重量の20%以上の荷重が前輪に作用していることが必要です。もし、不足するときはトラクタ指定のフロントウエイトを取付けて、20%以上を確保してください。できなれば装着しないでください。

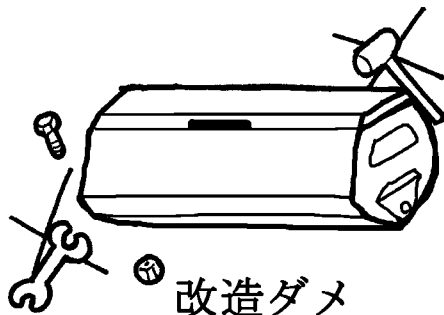


(6) バランスウエイトの取付け

トラクタのバランスウエイトは指定された部分に指定されたウエイト以外は取付けしないでください。

(7) 機械の改造厳禁

指定以外の部品を取付けしないでください。
また、改造をしないでください。



(8) 使用目的以外への使用禁止

肥料や土壌改良剤の散布を目的とした機械です。
他の目的には使用しないでください。

(9) 機械を他人に貸すとき

取扱方法をよく説明して、使用前には『取扱説明書』を必ず読むように指導してください。



2. 点検・整備をしてください

(1) 1年毎の定期点検・整備を

整備不良による不具合や事故を防止するために、1年毎に定期点検・整備を受け、機械が最良の状態で作業できるようにしてください。

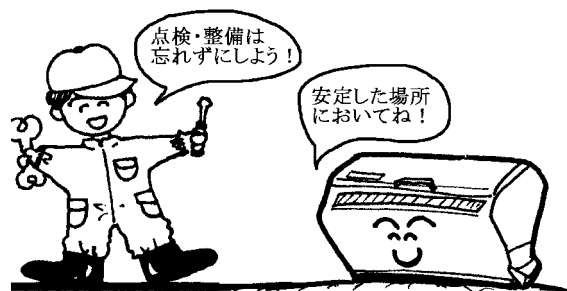


(2) 作業前の点検・整備を忘れずに

ご使用になる前と後には必ず点検・整備を行ってください。

(3) 点検・整備・掃除をするとき

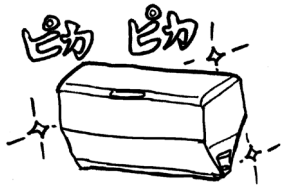
点検・整備・修理・掃除をするときは、交通の危険がなく、機械が転倒したり、動いたりしない平坦で安定した場所でPTOを切り、トラクタのエンジンを停止し、駐車ブレーキまたは車止めをしてから行ってください。



⚠ 安全に作業するために

(4) 機械を常にきれいに

火災予防と性能維持のため、回転部への草などの巻付きやたまりを取り除き、機械を常にきれいに維持してください。



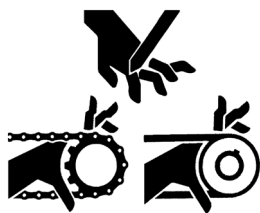
(5) 排気ガスには十分注意

屋内などでエンジンを始動するときはエンジンの排気ガスによる一酸化炭素中毒の恐れがあります。エンジンの始動は、風通しのよい場所で行い、やむをえず屋内で始動する場合には、十分換気を行ってください。



(6) カバー類を必ず取付ける

カバー類などの防護装置を取外すときは、必ずPTOを切り、エンジンを停止してから行ってください。また、取外したカバー類は必ず元どおりに取付けてください。守らないと傷害事故を引き起こす恐れがあります。



(7) 注油・給油するときは

PTOを切り、エンジンを停止し、回転部分が完全に停止してから行ってください。



(8) 長期格納するときは

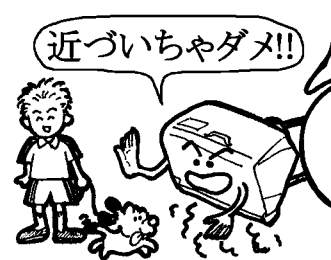
機械を清掃し、回転部には十分注油して、屋内の平坦な場所に保管してください。



3. 作業・移動をするときは

(1) 人や動物を近づけない

特に子供には十分注意し、近づけないようにしてください。

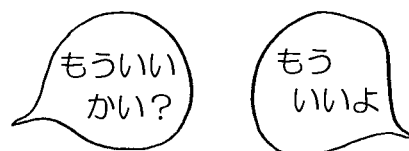


(2) PTO回転中は危険です

回転部には近寄らない、触らないを守ってください。

(3) 二人以上で作業するときは

二人以上の共同作業では、お互いに声を掛け合うなどして、安全を確認合いながら作業してください。



⚠ 安全に作業するために

(4) エンジンを始動するときは

PTOを切り、変速レバーを中立にし
周囲の人に合図をして安全を確かめて
からエンジンを始動してください。
守らないと傷害事故を引き起こす恐れ
があります。



(5) 急な発進・停止・旋回・

スピードの出しすぎ禁止

スピードの出しすぎ、急な発進・停止・
旋回は、事故の原因となるだけでなく、
機械の寿命も縮めますので行わないで
ください。

また、起状の多いほ場や傾斜地は、
危険です。作業スピードは極力落として
作業を行ってください。

(6) 傾斜地で作業するときは

次のことを必ず守ってください。

- ①等高線に平行、または斜めに走行する
と横転の危険があります。

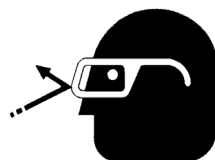
斜面の作業は、必ず等高線に直角方向
に走行してください。

- ②傾斜地で旋回するときは、速度を落と
し、急ハンドルを切らないでください。
高速で旋回すると、転倒する危険が
あります。

(7) キャビンなしのトラクタに装着して

作業する場合

肥料が飛散し、目や呼吸器に入る恐れ
がありますので、必ず保護メガネと保
護マスクを着用して作業してください。



保護メガネ着用
保護マスク着用

(8) 回転中のユニバーサルジョイント

には触らない

回転しているユニバーサルジョイントに、
手や足で絶対に触れないでください。
巻き込まれ傷害を負うことがあります。



(9) 回転中のアジテータには触れない

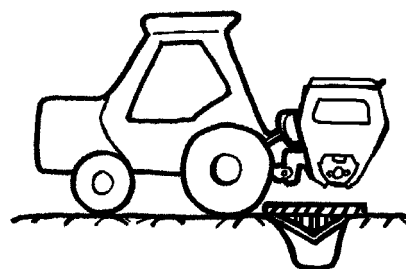
回転しているアジテータに、手や足で
絶対に触れないでください。触れると
傷害を負うことがあります。



(10) 溝や畦の横断や軟弱な所を

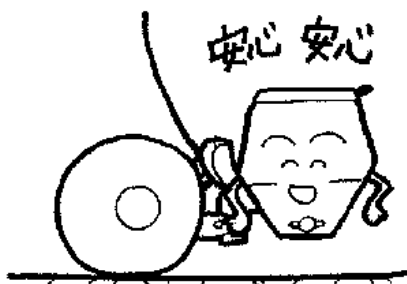
通るときは

スリップや転倒による事故を防ぐため
に、幅・長さ・強度が十分あるスリッ
プしないアユミ板をかけ、最低速度で
通ってください。



⚠ 安全に作業するために

- (1 1) 作業途中で運転席より離れるときは
平坦な場所に停車し、PTOを切り、
エンジンを停止し、駐車ブレーキを
掛けてください。
また、トラクタの油圧を下げ、作業機
を地面に降ろしておくようにしてくだ
さい。

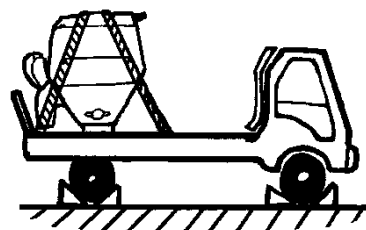


(1 2) 散布肥料の運搬は

必ず、ほ場へ運んでからホッパーに
入れるようにしてください。
ホッパーに肥料を入れたままでの運搬
は、肥料づまりの原因となりますし、
機械の寿命も縮めますので行わないで
ください。

4. 輸送するときは

- (1) トラックなどへの積み込み・降ろしは
平坦な場所でトラックが移動しないよ
うエンジンを停止し、サイドブレーキ
をかけ、車止めをしてください。
積み込んだ機械は車止めをし、強度が
十分にあるロープで確実に固定して
ください。



以上、機械の取扱いで注意していただく主だった事項を記載しましたが、これ以外にも

本文の中で ⚠ 印を付けて安全上の注意事項を表記しております。

⚠ 安全に作業するために

5. 公道走行するときは

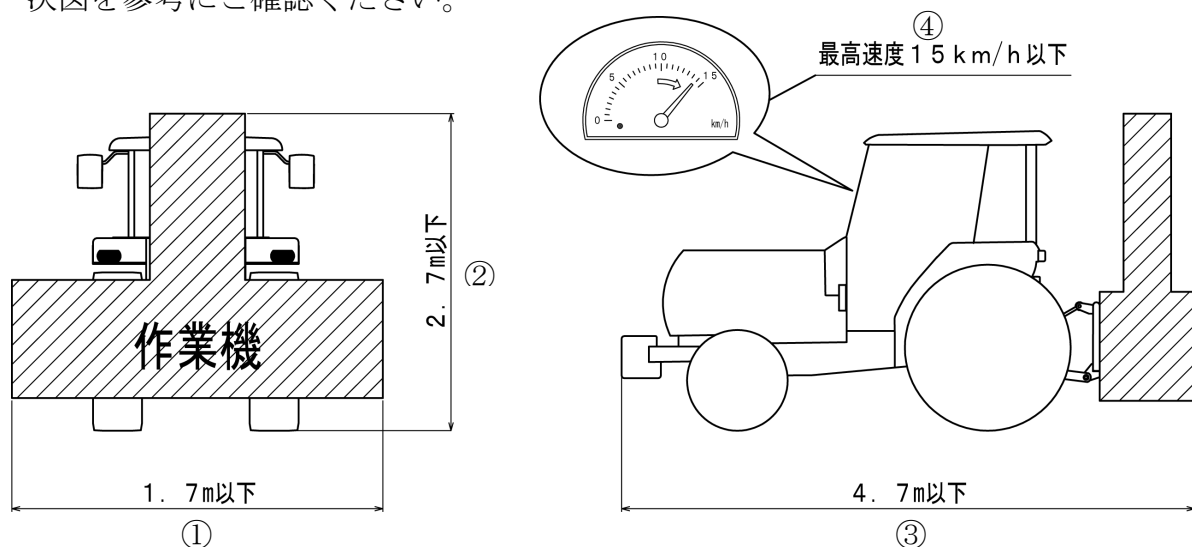
農耕用トラクタに関わる道路運送車両法の運用が見直され、保安基準に緩和措置が設けられました。必要な対応をすることで、直装タイプの作業機で公道を走行することができます。公道走行をする際は、下記項目を確認したうえで必要な対応を行い、法令遵守して走行してください。

(1) 必要な運転免許証について

トラクタ単体の場合、道路運送車両の技術基準(保安基準)の適合性を確保できる農耕トラクタであれば小型特殊免許/普通免許及び大型特殊免許(農耕用に限るも、含む)で運行可能ですが、トラクタに作業機を装着した際に①～④の数値をひとつでも上回る場合、大型特殊免許(農耕用に限る、も含む)が必要となります。

- | | |
|----------|-----------------------------|
| ① 全幅1.7m | ② 全高2.0m(安全キャブや安全フレームは2.8m) |
| ③ 全長4.7m | ④ 最高速度15km/h以下 |

次図を参考にご確認ください。



(2) 保安基準への適合性確認

自動車の種類と大きさにより、申請や検査登録が必要になります。

	農業用小型特殊自動車	農業用大型特殊自動車
トラクタに作業機を装着した時の寸法が、全幅2.5m、全長12m、全高3.8mを <u>すべて超えない</u> 場合	公示一括緩和を適用した車両として申請や登録は必要ありません。	全国の運輸支局等で検査登録が必要です。
トラクタに作業機を装着した時の寸法が、全幅2.5m、全長12m、全高3.8mを <u>いずれかを超える</u> 場合	- 全長12m、全高3.8mのいずれかを超える場合は、地方運輸局長に個別緩和を申請する必要があります。 - 道路管理者から特殊車両通行許可を得る必要があります。	- 検査登録が必要です。 - 全長12m、全高3.8mのいずれかを超える場合は、地方運輸局長に個別緩和を申請する必要があります。 - 道路管理者から特殊車両通行許可を得る必要があります。

⚠ 安全に作業するために

(3) 灯火器類・ステッカーの取付け

下記フローチャート①～④を全てそれぞれについてご確認ください、必要に応じて公道走行を行うための追加装備を取付けてください。

①作業機最外側からトラクタの灯火器類までの距離

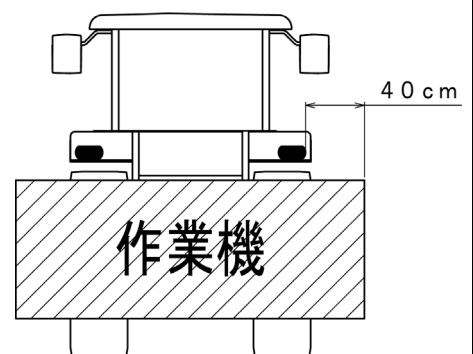
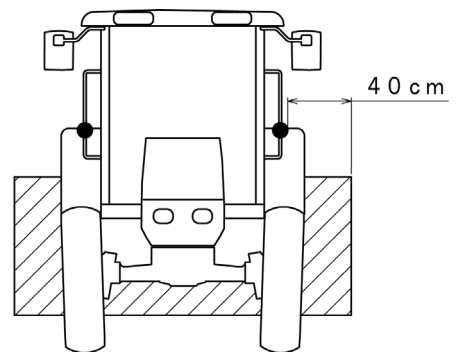
トラクタの後退灯以外の灯火器類の取付け位置が全て作業機の最外側から40cm以内にある。

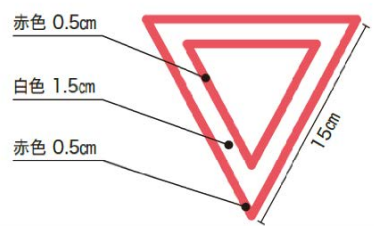
YES

NO

①での追加装備は必要ありません。

前面:A.白色反射器
後面:B.赤色反射器
C.制限標識
を取付ける必要があります。



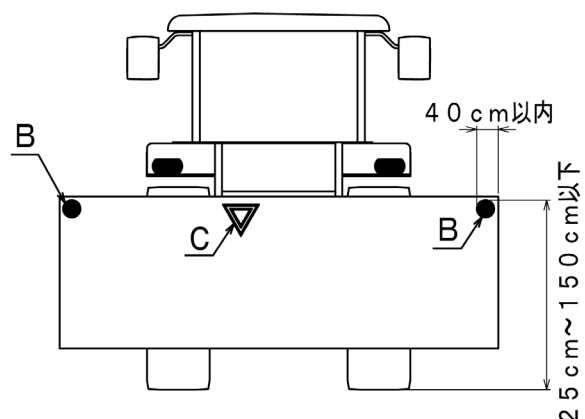
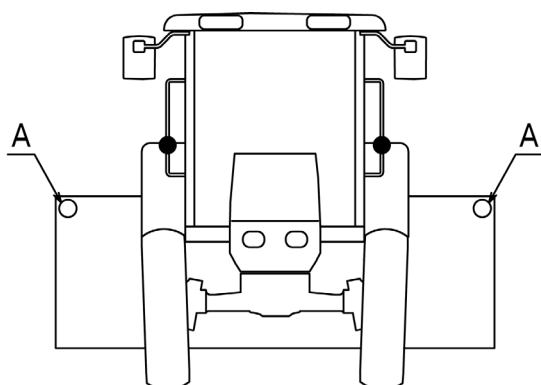
A.白色反射器	B.赤色反射器	C.制限標識
		 赤色 0.5cm 白色 1.5cm 赤色 0.5cm 15cm

●装備の取付け位置

道路運送車両法の保安基準により、各種灯火器類取付け位置が定められています。

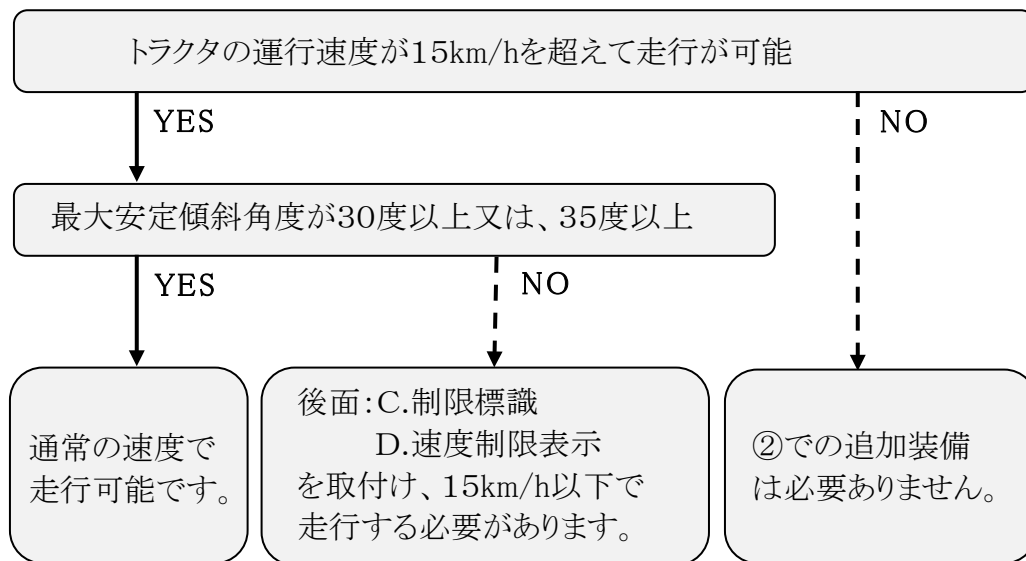
- ・ Aは前面の両側に、可能な限り最外側を取付けてください。
- ・ Bは後面の両側に、作業機の最外側から40cm以内、高さが地上25cm以上150cm以下の場所に可能な限り左右対称になるように取付けてください。
- ・ Cは後方から確認(視認)できる位置に取付けてください。

(取付け例)



⚠ 安全に作業するために

②トラクタの運行速度



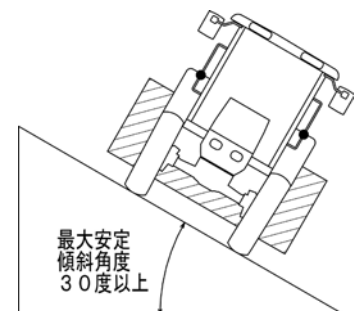
- 運行速度が15km/hに制限されないトラクタと作業機との組合わせについては日農工のホームページ(<http://www.jfmma.or.jp>)をご覧ください。
- 最大安定傾斜角度が不明な場合は、運行速度15km/h以下で走行してください。

<安定性に関して>

作業機を装着した際に、最大安定傾斜角度が30度以上または、35度以上(車両総重量が車両重量の1.2倍以上または、積載により重心高さが上がるもの)であれば、通常ので速度で道路走行できます。

上記条件を満たさない場合は、

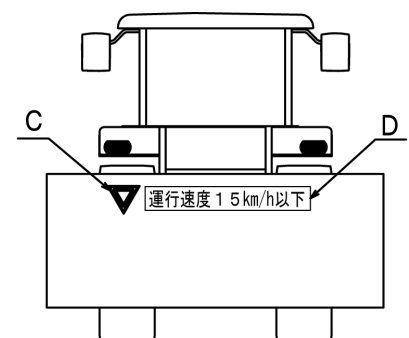
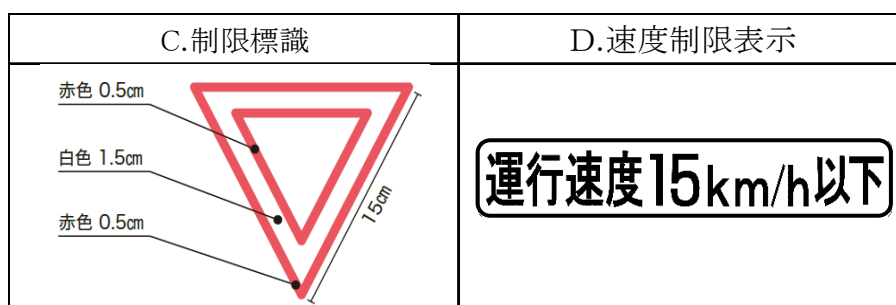
- ・運行速度15km/h以下での道路走行
- ・道路走行をする際に、Cを作業機に表示、Dを作業機・運転席に表示を行う必要があります。



●装備の取付け位置

- ・C、Dは後方から確認(視認)できる位置に取付けてください。
- ・Dは運転席にも表示する必要があります。

(取付け例)



⚠ 安全に作業するために

③トラクタの灯火器類（後部反射器、コンビネーションランプ（尾灯・制動灯・方向指示器）、後退灯）の視認性

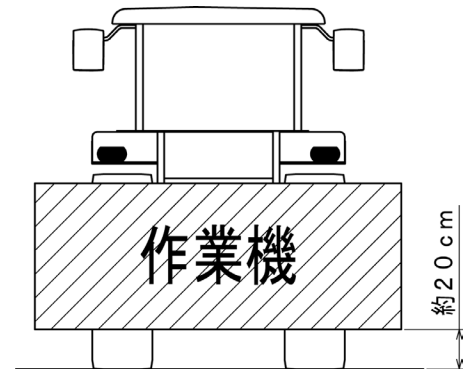
作業機の機体最下部を地面から約20cm上げた状態で後方から確認し、トラクタの灯火器類が視認できる。（※1）

YES

③での追加
装備は必要
ありません。

NO

・後退灯のみ視認できない場合は
可能な限りトラクタ上で移設してください。
・視認できない灯火器類は、作業機
に取付ける必要があります。
※取付けは販売店にご相談ください。



●装備の取付け位置

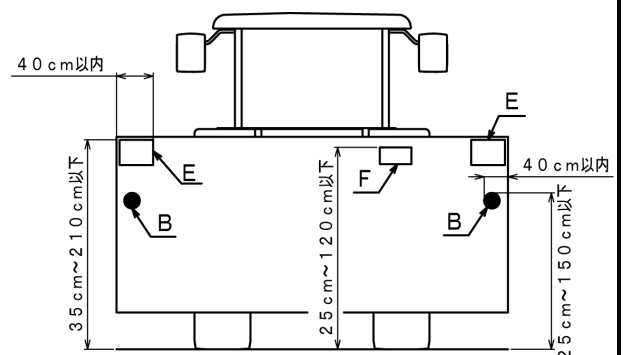
・各種灯火器類の取付け位置は以下のように定められています。

- 後部反射器（リフレクター） 最外側から40cm以内、高さは地上25cm以上150cm以下
- 尾灯（テールランプ） 最外側から40cm以内、高さは地上35cm以上210cm以下
- 制動灯（ブレーキランプ） 最外側から40cm以内、高さは地上35cm以上210cm以下
- 方向指示器（ウインカー） 最外側から40cm以内、高さは地上35cm以上230cm以下
- 後退灯（バックランプ） 高さは可能な限り25cm以上120cm以下

- ・B、Eは後方から確認（視認）できる位置に、上記条件を満たし、可能な限り左右対称になるように取付けてください。
- ・Fは後方から確認（視認）できる位置に、上記条件を満たすように取付けてください。

（取付け例）

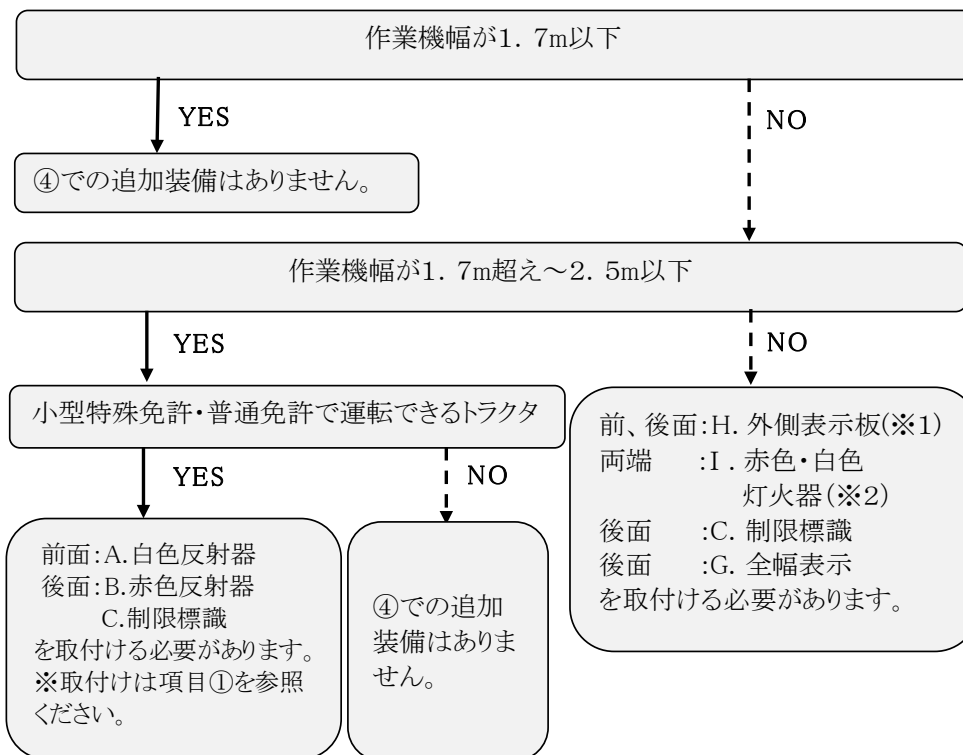
B.赤色反射器	E.コンビネーションランプ	F.後退灯



※1 単体で長さ4.7m以下、全幅1.7m以下、高さ2.0m以下、かつ、最高速度15km/h以下である農耕用トラクタの場合、尾灯・制動灯・後退灯は取付け義務が無い場合、装備されていない場合は確認の必要はありません。

⚠ 安全に作業するために

④作業機装着時の全幅



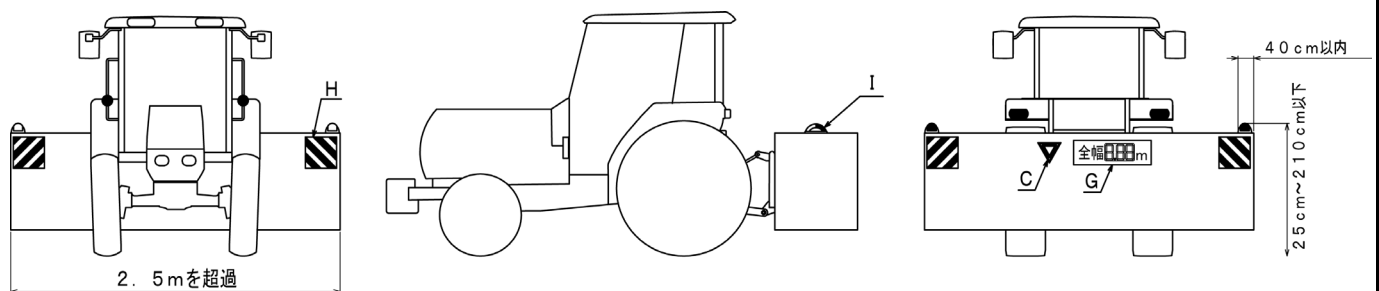
※1 トラクタの灯火器類が作業機の最外側から40cm以上ある場合、反射器が必要になります。しかし、当社の外側表示板は反射材を含んでいるため、反射器は取付け不要です。

※2 トラクタの灯火器類が作業機の最外側から40cm以内の場合、取付け不要です。

●装備の取付け位置

- ・C、Gは確認(視認)できる位置に取付けてください。
- ・Hは前後、両端に赤白ラインが「ハの字」になるように取付けてください。
- ・Iは可能な限り最外側に取付けてください。また、前面が白色、後面が赤色になるようにしてください。

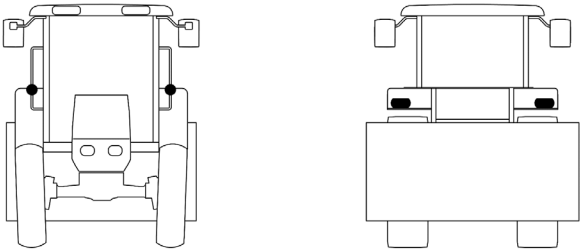
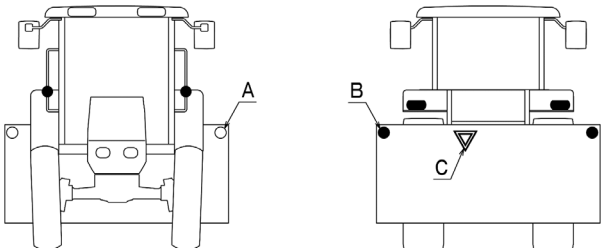
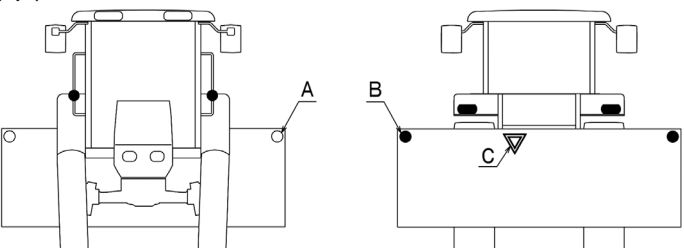
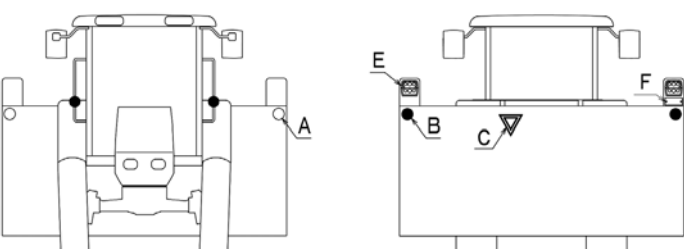
(取付け例)



⚠ 安全に作業するために

灯火器類・ステッカー取付け例

トラクタに作業機装着時の寸法が、全幅2.5m、全高3.8m、全長12m以下の場合

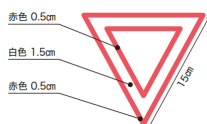
灯火器類の視認性 前照灯 車幅灯 尾灯 後部反射器 制動灯 方向指示器	トラクタの灯火器類が<u>全て視認できる</u>場合	灯火器類の取付け位置が全て作業機の最外側から40cm以内の場合	(ア) 視認性による取付け部品無し 
		灯火器類の取付け位置が全て作業機の最外側から40cm以内、かつ<u>小型特殊免許・普通免許</u>で走行できるトラクタで幅1.7mを超える作業機を取付ける場合	(イ) 
		作業機の最外側から40cm以上離れている灯火器がある場合	(ウ) 
	トラクタの灯火器類で<u>視認できないもの</u>がある場合		(エ) 例：(ウ)に灯火器類を取付け 

灯火器・ステッカー

A. 白色反射器 B. 赤色反射器



C. 制限標識



D. 速度制限表示

運行速度15km/h以下

E. コンビネーションランプ



F. 後退灯



G. 全幅表示

全幅8.88m

H. 外側表示板



I. 赤色・白色灯火器



⚠ 安全に作業するために

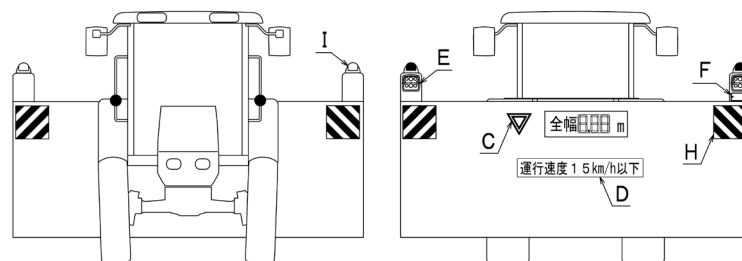
灯火器類・ステッカー取り付け例

			トラクタに作業機装着時の全幅が2.5mを超過する場合
灯火器類の視認性 前照灯 車幅灯 尾灯 後部反射器 制動灯 方向指示器	トラクタの灯火器類が 全て視認できる 場合	灯火器類の取付け位置が全て作業機の最外側から40cm以内の場合	(オ)
		作業機の最外側から40cm以上離れている灯火器がある場合	(カ)
	トラクタの灯火器類で 視認できないもの がある場合		(キ) 例：(カ)に灯火器類を取付け

※全幅が2.5mを超過する場合は、道路管理者（国道：地方道路局、県道：各都道府県、市道：各市町村）から特殊車両通行許可を得る必要があります。

p.8「②トラクタの運行速度」を確認後、速度制限表示が必要な場合は取付けてください。

例：(キ) に速度制限表示を追加



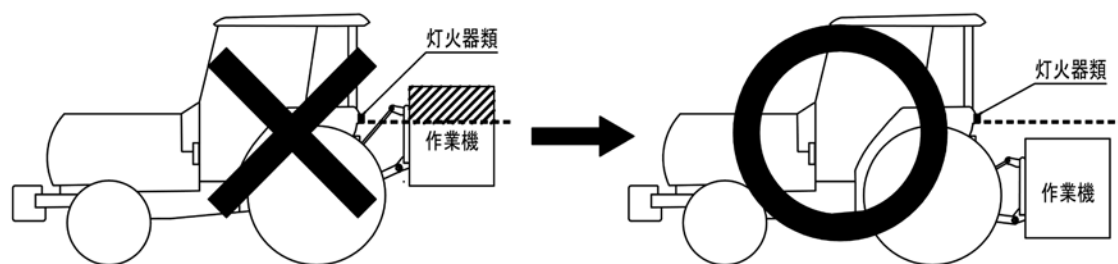
- 灯火器類取付けの際には、トラクタの操作と連動して点灯することを確認後に公道走行を行ってください。また、灯火器類・ステッカーが汚れたときは視認できるように掃除をしてください。

詳細は日農工「公道走行ガイドブック」(<http://www.jfmma.or.jp/kouido.html>)をご覧ください。
 その他不明な点は、お買い上げいただいた販売店にご相談ください。

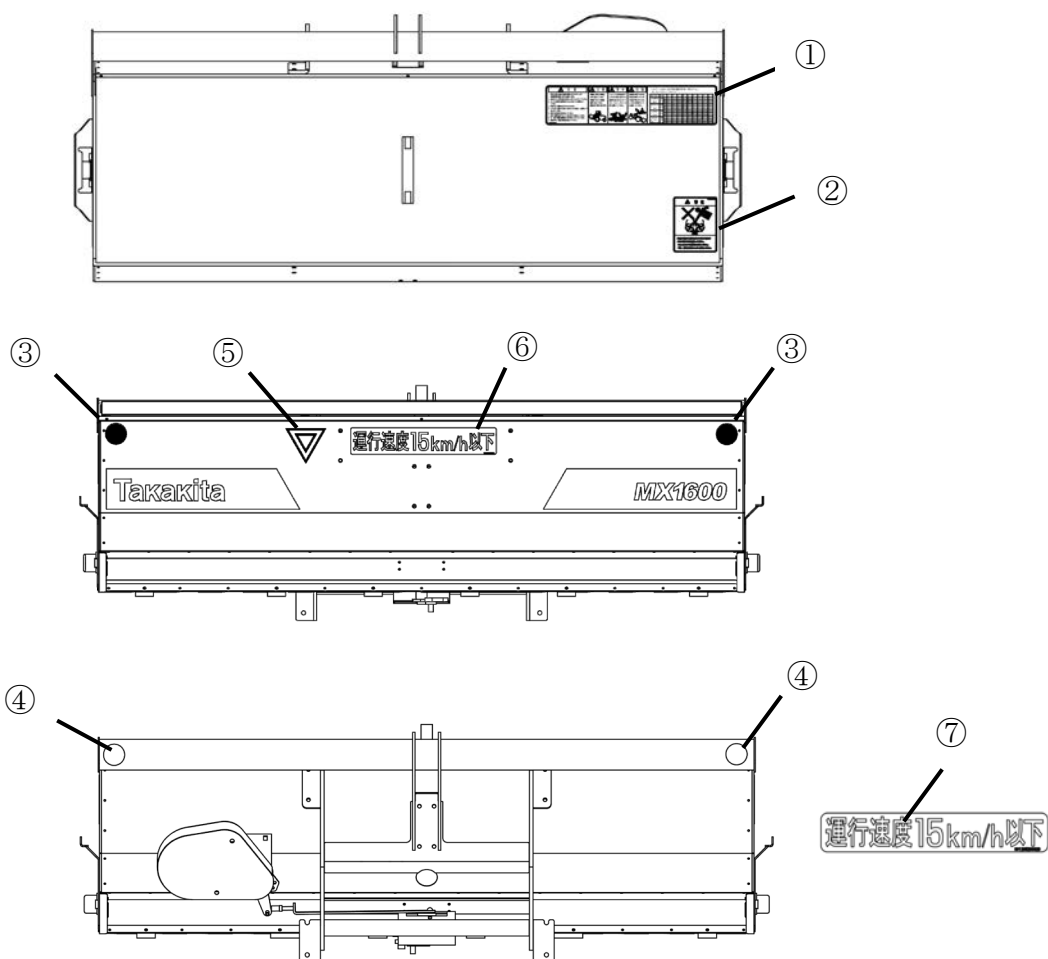
⚠ 安全に作業するために

(4) 公道走行時の注意点

- トラクタの灯火器類が視認可能であれば、灯火器類を取付ける必要はありません。
灯火器類を取付けてない作業機は、次図のようにトラクタの灯火器類が見えるように作業機の高さを調整してください。



6. 警告ラベルの貼付け位置



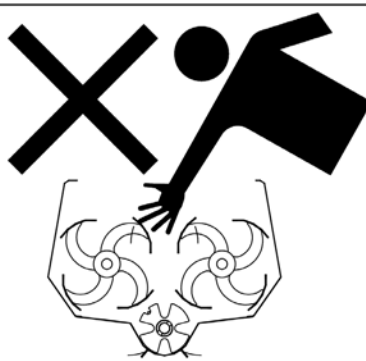
⚠ 安全に作業するために

①部品コード 00120-6002-192

注意	注意	警告	危険	10オールあたりの散布量目安表 (単位Kg)																																																																																																																																			
1. 取扱いを誤ると事故や故障の原因となりますので、必ず取扱説明書をお読みください。 2. 全部のラベルが所定部分に貼付けられているようにしてください。 3. エンジン始動前に機体の周りに人がいないことを確認してください。 4. 作業中は人や動物を近づけないでください。 5. トラクタから離れるときは、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてください。 6. 斜面での駐車時は車輪止めをしてください。 7. 点検・調整等は必ずエンジンを止めてから実施してください。 8. 手、足及び衣服を運動部分に近づけないようにしてください。 9. 道路走行は、道路交通法を遵守してください。	作業機を上昇させる場合は十分に注意してください。 作業機がトラクタと接触し破損するばかりでなく、傷害を受ける恐れがあります。	ジョイントに巻き込まれてケガをする恐れがあります。 回転中は近づかないでください。ジョイントカバーは常に装着してください。	転落事故を防ぐためには、前進や後退時にトラクタの前後が浮き上がらないよう充分な前後ウエイトを装着してください。	表は、おおよその目安としてご利用ください。(トラクタPTO回転速度540rpmの場合) <table border="1"> <thead> <tr> <th>散布肥料</th> <th>開度</th> <th>20</th> <th>30</th> <th>40</th> <th>50</th> <th>60</th> <th>70</th> <th>80</th> <th>90</th> <th>100</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">化成肥料 (粒状)</td> <td>車速</td> <td>4</td> <td>—</td> <td>16</td> <td>70</td> <td>178</td> <td>605</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>—</td> <td>13</td> <td>56</td> <td>142</td> <td>484</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>—</td> <td>11</td> <td>47</td> <td>119</td> <td>404</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">ヨウリン (砂状)</td> <td>車速</td> <td>4</td> <td>—</td> <td>43</td> <td>147</td> <td>338</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>—</td> <td>34</td> <td>118</td> <td>270</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>—</td> <td>29</td> <td>98</td> <td>225</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">消石灰 (粉状)</td> <td>車速</td> <td>4</td> <td>—</td> <td>27</td> <td>43</td> <td>70</td> <td>129</td> <td>191</td> <td>279</td> <td>416</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>—</td> <td>22</td> <td>34</td> <td>56</td> <td>104</td> <td>153</td> <td>223</td> <td>333</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>—</td> <td>18</td> <td>29</td> <td>47</td> <td>86</td> <td>128</td> <td>186</td> <td>278</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">低水分 コンポスト (比重0.3)</td> <td>車速</td> <td>4</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>29</td> <td>63</td> <td>104</td> <td>140</td> <td>203</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>23</td> <td>50</td> <td>83</td> <td>112</td> <td>162</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>20</td> <td>42</td> <td>69</td> <td>93</td> <td>135</td> </tr> </tbody> </table>	散布肥料	開度	20	30	40	50	60	70	80	90	100	化成肥料 (粒状)	車速	4	—	16	70	178	605	—	—	—	5	—	13	56	142	484	—	—	—	6	—	11	47	119	404	—	—	—	ヨウリン (砂状)	車速	4	—	43	147	338	—	—	—	—	5	—	34	118	270	—	—	—	—	6	—	29	98	225	—	—	—	—	消石灰 (粉状)	車速	4	—	27	43	70	129	191	279	416	5	—	22	34	56	104	153	223	333	—	6	—	18	29	47	86	128	186	278	—	低水分 コンポスト (比重0.3)	車速	4	—	—	—	29	63	104	140	203	5	—	—	—	—	23	50	83	112	162	6	—	—	—	—	20	42	69	93	135
散布肥料	開度	20	30	40	50	60	70	80	90	100																																																																																																																													
化成肥料 (粒状)	車速	4	—	16	70	178	605	—	—	—																																																																																																																													
	5	—	13	56	142	484	—	—	—																																																																																																																														
	6	—	11	47	119	404	—	—	—																																																																																																																														
ヨウリン (砂状)	車速	4	—	43	147	338	—	—	—	—																																																																																																																													
	5	—	34	118	270	—	—	—	—																																																																																																																														
	6	—	29	98	225	—	—	—	—																																																																																																																														
消石灰 (粉状)	車速	4	—	27	43	70	129	191	279	416																																																																																																																													
	5	—	22	34	56	104	153	223	333	—																																																																																																																													
	6	—	18	29	47	86	128	186	278	—																																																																																																																													
低水分 コンポスト (比重0.3)	車速	4	—	—	—	29	63	104	140	203																																																																																																																													
	5	—	—	—	—	23	50	83	112	162																																																																																																																													
	6	—	—	—	—	20	42	69	93	135																																																																																																																													

②部品コード 00120-6002-201

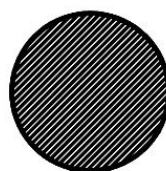
警告



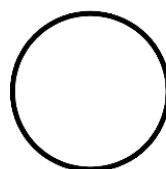
回転部に接触すると巻き込まれてケガをする恐れがあるため以下の事項を厳守してください。

- ・ヒリョウオキアミは絶対に外さないで下さい。
- ・清掃、点検の際は必ずエンジンを停止して下さい。

③部品コード 00120-6002-270



④部品コード 00120-6002-280



⑤部品コード 00120-6002-260



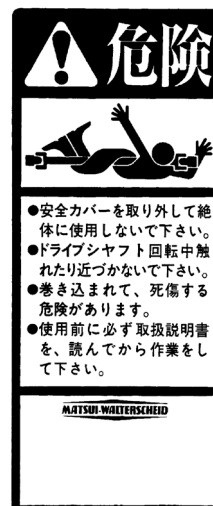
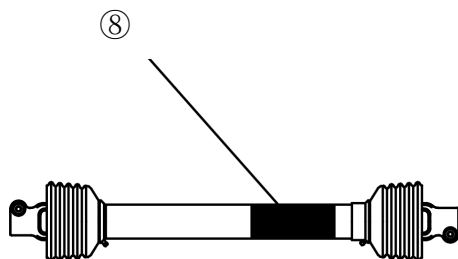
⑥部品コード 00120-5200-010

運行速度15km/h以下

⑦部品コード 00120-5200-020

運行速度15km/h以下

⚠ 安全に作業するために



⑧部品コード 00130-6951-010

警告ラベルの取扱い注意事項

- (1) 警告ラベルはいつもきれいにして傷をつけないように、また汚れている場合、中性洗剤で洗い、軟らかい布で水気を拭いてください。
- (2) 傷ついたり、汚れたり、剥がれた場合は、お買い上げの販売店または当社に注文し、新しいラベルを元の位置に貼ってください。(ラベルをご注文の際は部品コードをご連絡ください。)
- (3) 警告ラベルが貼ってある部品を交換する場合は、新しいラベルを注文して元の位置に貼ってください。
- (4) 新しいラベルを貼る場合は、汚れを拭き取り、乾いた面に貼ってください。気泡は隅の方へ押しながら抜いてください。

本製品の使用目的とサービスについて

本製品の使用目的について

本製品は、粒状、砂状、粉状、乾燥有機の肥料の散布作業にご使用ください。

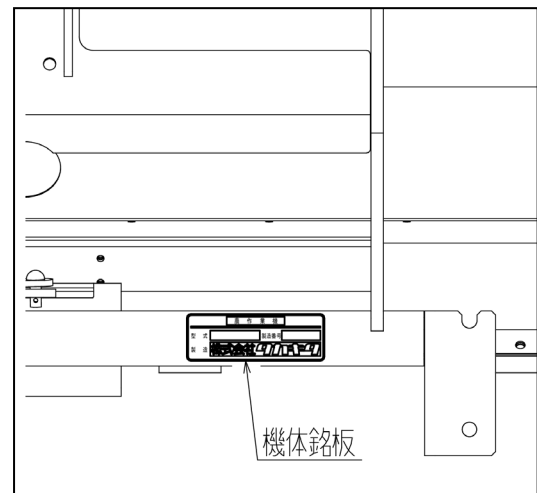
使用目的以外の作業や改造などは、決して行わないでください。

使用目的以外の作業や改造をした場合は、保証の対象になりません。

(機体銘板貼付け位置図)

アフターサービスについて

機械の調子が悪いとき、不調診断に従って点検・処置しても、なお不具合があるときは、お買い上げいただいた販売店、J A (農協)、または、お近くの当社営業所までご連絡ください。



【連絡していただきたい内容】

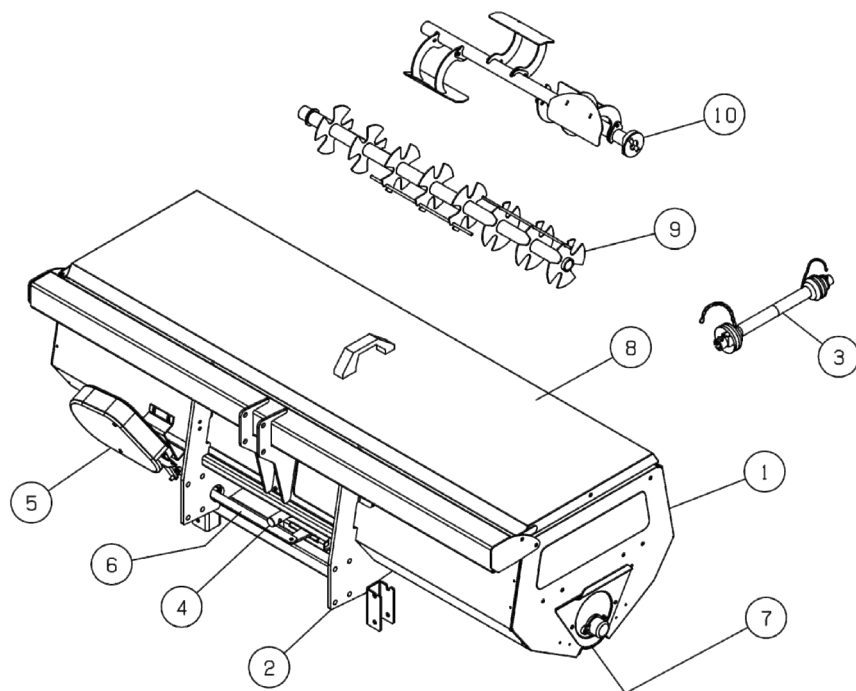
- 品名と型式
- 機体 No. (S E R - N o.)
- ご使用状況は？
(どんな条件でどんな作業をしていたときに)
- どれくらい使用されましたか？
(約〇〇アール、または約〇〇時間使用后)
- 不具合が発生したときの状況をできるだけ詳しく教えてください

※機体No.は、上図に示す機体銘板に打刻しております。

【今後参考のため、次の空欄に機体 No. などを記入しておいてください。】

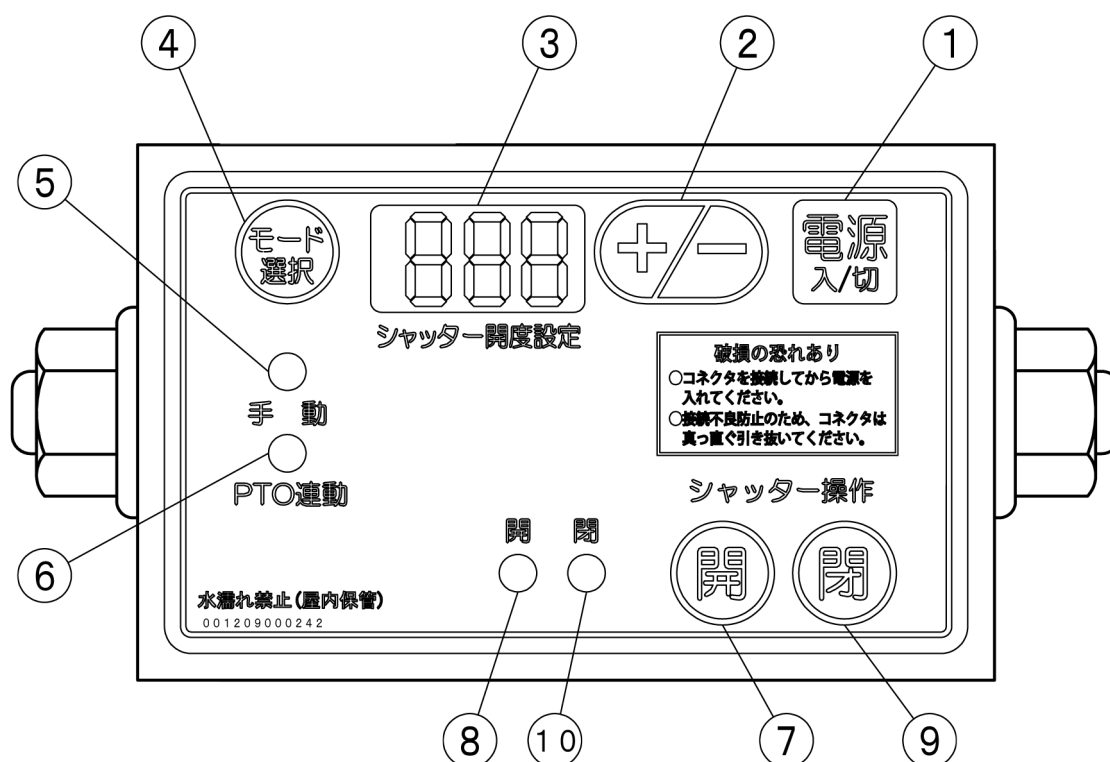
品 名	M i x ソーワ		
型 式			
機 体 No. (SER-No.)			
購入年月日	年	月	日
販売店名	TEL : ()		

各部の名称とはたらき



名 称	は た ら き
①ホッパー	肥料を投入する器
②フレーム	全体の構成部を保持する
③ユニバーサルジョイント	トラクタのPTO軸の動力を本機のミッション 入力軸へ伝達するプロペラシャフト
④入力軸	本機側の動力取り入れ軸
⑤電動シャッター装置	肥料散布シャッターの開閉および散布量を電動モータで調整する 装置
⑥ロッド	電動シャッター装置の作動をシャッターに連結する
⑦シャッター	肥料の落下繰り出し量を調整する
⑧フタ	粉状肥料散布時のまきあげを防止する
⑨クリダシアジテータ	肥料を定量に散布させる羽根付の軸
⑩コンゴウアジテータ	肥料を攪拌、混合させるパドル付の軸

各部の名称とはたらき



名 称	は た ら き
①電源ボタン	電源の入切をする
②+/-ボタン	シャッターの開度を設定する ※
③表示	シャッター開度[%]を表示する
④モード選択ボタン	手動、PTO連動のモード切替をする ※
⑤手動ランプ	手動モードの時に点灯する
⑥PTO連動ランプ	PTO連動モードの時に点灯する
⑦開ボタン	設定開度までシャッターを開ける
⑧開ランプ	シャッター開時に点灯する
⑨閉ボタン	シャッターを閉じる
⑩閉ランプ	シャッター閉時に点灯する

※電源入/切ボタンで電源をOFFにすると開度設定の値・モードを記憶します。

トラクタへの装着

！ 警告

- トラクタへの本機の装着は平坦で安定した場所で行ってください。
- 3点リンケージへの装着はリンケージの動きに十分注意し、二人以上の共同作業では、お互いに声を掛け合うなどして、安全を確かめ合いながら作業してください。
- ユニバーサルジョイントは、必ずトラクタのエンジンを停止し、PTOを切ってから確実に取り付けてください。

以上のことを守らないと傷害発生のおそれがあります。

1. 3点リンケージへの装着のしかた

◆3点リンケージの装着順序

左のロワーリンク、右のロワーリンク、トップリンクの順序で取り付けてください。

◆トップリンク連結穴位置は

トラクタ側のトップリンク連結位置は、トップリンクとロワーリンクが最も平行に近い位置で取り付けてください。

◆トップリンクの長さの調整

トップリンクの長さで本機のトラクタへの装着後の水平状態を調整します。
標準作業時で、シャッター部の地上高は約30cmです。(詳細は作業方法の項参照)

◆チェックチェーンで横振れ調整

運搬および作業時には、本機の横振れを防止するために、チェックチェーンでトラクタ中心と本機中心が一致するように、左右均等に調整固定してください。

2. ユニバーサルジョイントの取付け

◆ユニバーサルジョイントの取付け順序

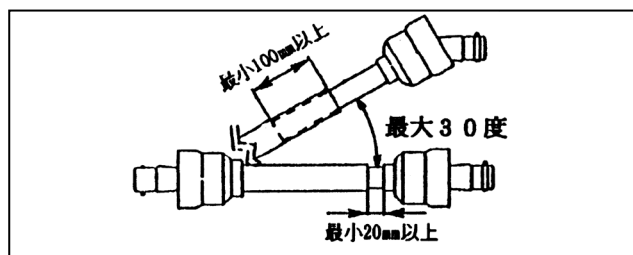
本機入力軸に取り付けてから、トラクタPTO軸に確実に取り付けてください。

注意

MX1601仕様のユニバーサルジョイントの本機側はジョイントピン方式となっています。本機の入力軸へユニバーサルジョイントをジョイントピンで確実に固定してください。

◆ユニバーサルジョイントの長さ確認

ジョイントの長さは、3点リンケージによる本機の上昇・下降により変化します。作業前にジョイントが長すぎないかを確認し、長すぎるときは、次図の寸法が確保できるように切断してください。



注意

作業時のジョイント角度は最大30度を超えないように調整してください。30度を超えるとジョイント破損の原因となります。

◆カバー回転止めチェーンで固定を

ユニバーサルジョイントのカバーが回転しないように、チェーンに余裕をつけてしっかりと固定してください。

3. オートヒッチの装着のしかた

◆装着できるオートヒッチは

本機に別売のMX-0Sキット部品(オプション)を組付けていただくと、各トラクタメーカー等で準備されている日農工規格標準オートヒッチO・I兼用型のオートヒッチに連結できます。

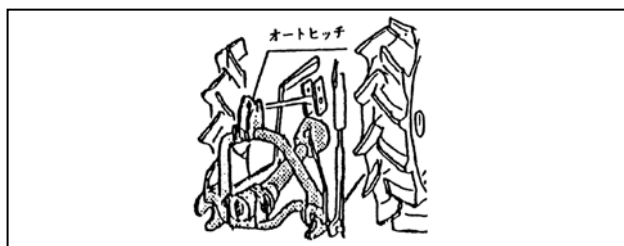
トラクタへの装着

注意

詳細は、販売店へご相談ください。

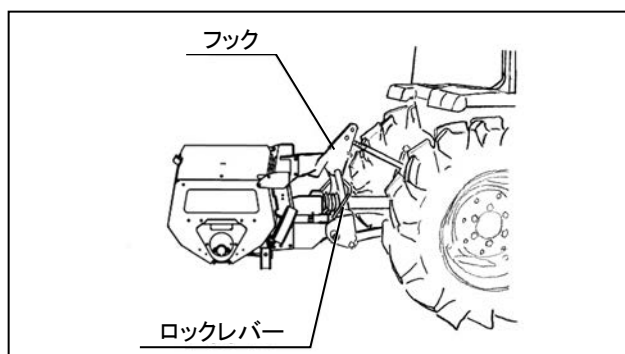
◆オートヒッチはトラクタ側に取り付けます

次図に示すように、トラクタの3点リンケージにオートヒッチを取り付けます。オートヒッチに動力伝達用のユニバーサルジョイントが装備されているため3点リンケージの他にPTO動力も同時に接続できます。



◆本機との着脱は簡単にできます

トラクタの3点リンケージにオートヒッチを取り付けて、次図のようにオートヒッチのフックで、本機側のトップリンクピンを狙いすくい上げると、ローワーリンク部とユニバーサルジョイント部が連結されます。連結後は、ロックレバーで必ずロックしてください。



◆日農工特4Pオートヒッチ

Mixソーワは日農工特4Pオートヒッチ(A型、B型)にも対応しています。別売のアタッチキットを組付けていただくと、各トラクタメーカー等で準備されている日農工特4Pオートヒッチに連結できます。

注意

詳細は、販売店へご相談ください。

注意

- 装着時には、作業機をゆっくり上昇操作し、トラクタと作業機が干渉しないか、特にキャビン付きトラクタの場合には、背面のガラスを割らないように注意してください。
- トラクタによっては、スイッチひとつで自動で最上部まで上昇する機能がありますが、装着時に必ず手動で干渉の有無を確認してから使用してください。
また、作業機が勢いよく上がるため10cm以上余裕を持って上げ規制を設定してください。
- 左右の水平調節に注意してください。
- クボタトラクタ(OEM含む)へ日農工特4PオートヒッチB型で取り付ける場合は、オートヒッチ側の5Pオートロータリ金具を取り外してください。
そのまま使用すると5Pオートロータリ金具とヒッチブラケットが干渉し、オートロータリが誤作動を起こすおそれがあります。

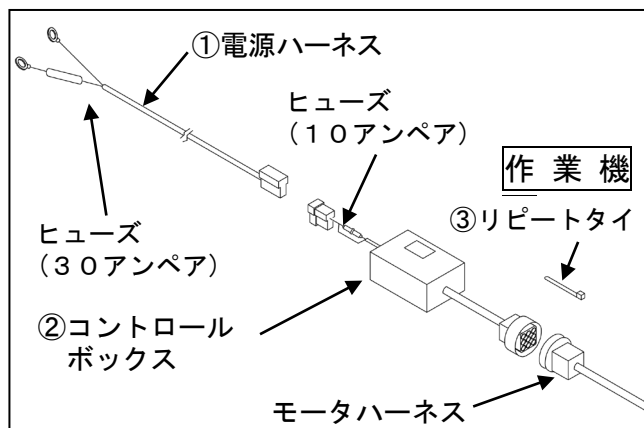
トラクタへの装着

4. コントロールボックスの装着のしかた

[1] ①電源ハーネスをトラクタのバッテリーと接続してください。

〔 白色線はバッテリーの(+)極へ
黒色線はバッテリーの(-)極へ
それぞれ接続してください。 〕

②コントロールボックスとモータハーネスを接続してください。



警告

接続の順序は(+)側から行ってください。
また、取り外すときは(-)側から行ってください。
逆にすると火花が飛び危険です。

注意

接続できるバッテリーの電圧は、12Vです。
24Vのバッテリーには接続しないでください。誤って接続すると、コントロールボックスおよびパルスモータが破損します。

注意

コントロールボックスとモータハーネスを接続する際は、必ず電源を切ってください。
電源を入れて接続すると、パルスモータが破損するおそれがあります。

[2] ②コントロールボックスのハーネスをトラクタの3点リンケージの上下動作に対応できるよう十分に余裕をもたせ、回転部等に干渉しないよう③リピータイで本機に取り付けてください。

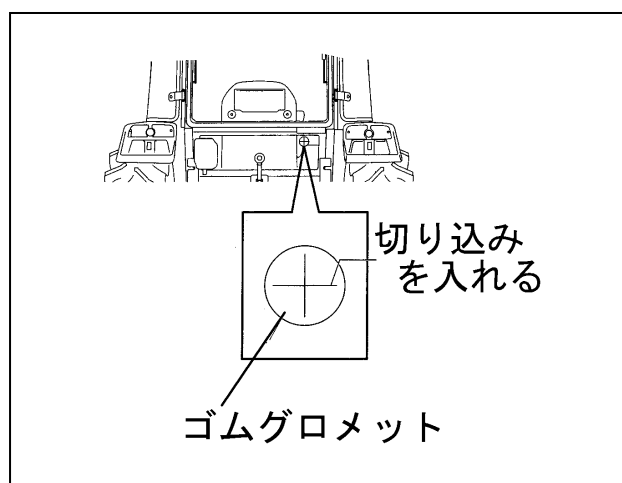
注意

使用前に各部の取り付けに誤りがないか確認してください。

ボルト、ナット等が確実に締め付けられているか必ず確認してください。

◆トラクタのハーネスの通しかたについて

キャビン付トラクタでハーネスをキャビン内に引き込む場合、キャビン後ろにゴムグロメットがついている時は、ゴムグロメットにカッターナイフで切り込みを入れ、ハーネスは必ずゴムグロメットを介して通してください。



警告

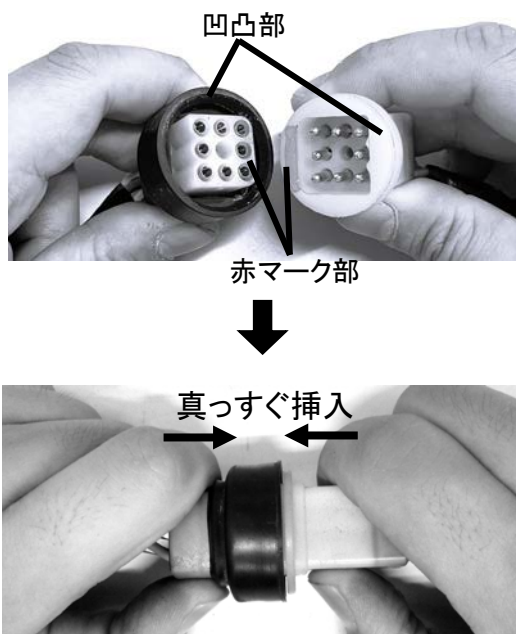
ゴムグロメットを外して通すと、電源コードに傷がつき、思わぬ事故をおこすおそれがあります。

トラクタへの装着

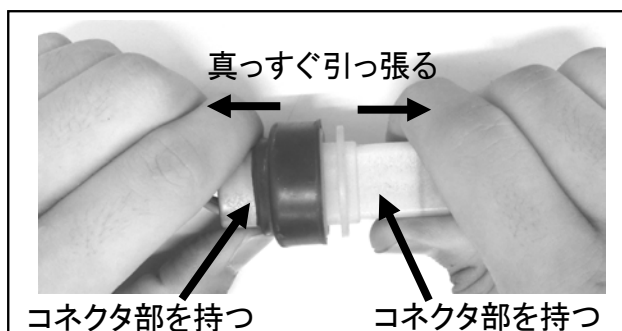
◆コネクタの脱着方法について

コネクタを接続するときは、次図のようにコントロールボックス側のコネクタと作業機側のコネクタの凹凸・赤マークを互いに向き合わせて真っすぐ奥まで挿入してください。

コネクタが挿入しづらい場合は「簡単な手入れと処置」にある「3. コネクタの保管と清掃について」を参照してください。



コネクタを外すときはコネクタ部を持ち左右に真っすぐ引っ張ってください。



注意

コントロールボックスとモータハーネスを接続する際は、必ず電源を切ってください。電源を入れて接続すると、パルスモータが破損するおそれがあります。

注意

コネクタをよじりながら外すと、端子の変形による接触不良が発生し、正常に動作しなくなるおそれがあります。



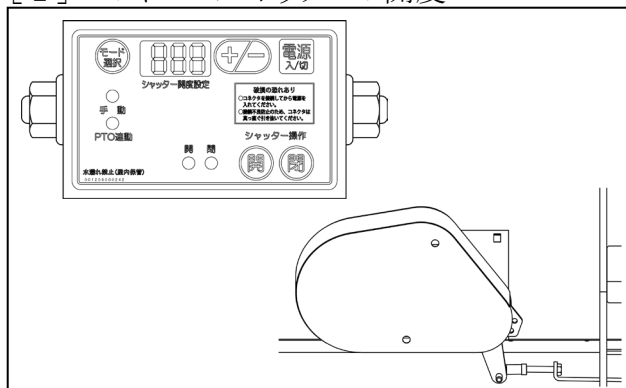
また、ケーブル部分を持ってコネクタを外すと導線が抜ける可能性があり、電気が流れず正常に動作しなくなるおそれがあります。



運転に必要な装置の取扱い

1. 電動シャッターの取扱い

[1] コントロールボックスの開度



- ・シャッターを閉にして[+/-]ボタンを押すと、シャッターの開度設定ができます。[+]ボタンを押すと、表示の数字が上がりシャッターの開度が大きくなります。また、[-]ボタンを押すと表示の数字が下がりシャッターの開度が小さくなります。
- ・コントロールボックスの[開]ボタンを押すと表示のところまでシャッターが開きます。(開ランプが点灯します)

注意

異物等がかみ込み表示開度まで開かない場合は、表示・全てのランプが点滅し、異常を知らせます。

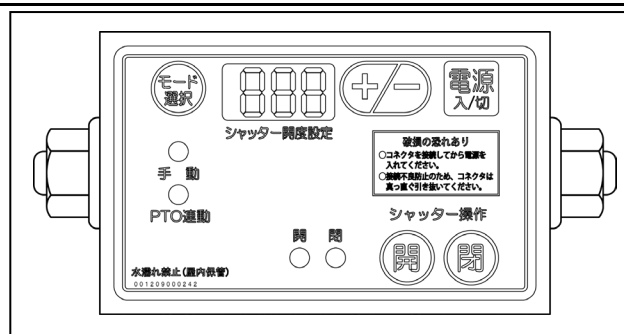
- [2] 散布作業を停止または終了するときは[閉]ボタンを押します。(閉ランプが点灯します)
- [3] 作業の終了時には、電源ボタンを押してください。

注意

シャッターが閉の状態にあるときは表示が点滅します、そのときは開度設定が可能な状態を示していますので異常ではありません。

2. PTO連動の取扱い

- ・トラクタのPTOのON・OFFに連動してシャッターを開閉することができます。この機能を使用する場合は、次の要領で操作してください。



- [1] コントロールボックスの電源を入れた状態で[モード選択]ボタンを押し、PTO連動ランプを点灯させてください。
- [2] PTOを回転させるとシャッターが表示位置まで開きます。
- [3] PTO回転を止めると自動でシャッターが閉じます。
- ・PTO回転中に[閉]ボタンを押すと、シャッターは強制的に閉じます。このとき、モードは[手動]に切り替わります。
- ・PTOモードを解除するときは、モード選択ボタンを押し[手動]に切り替えてください。

警告

点検・清掃は必ずエンジンを停止してから行ってください。

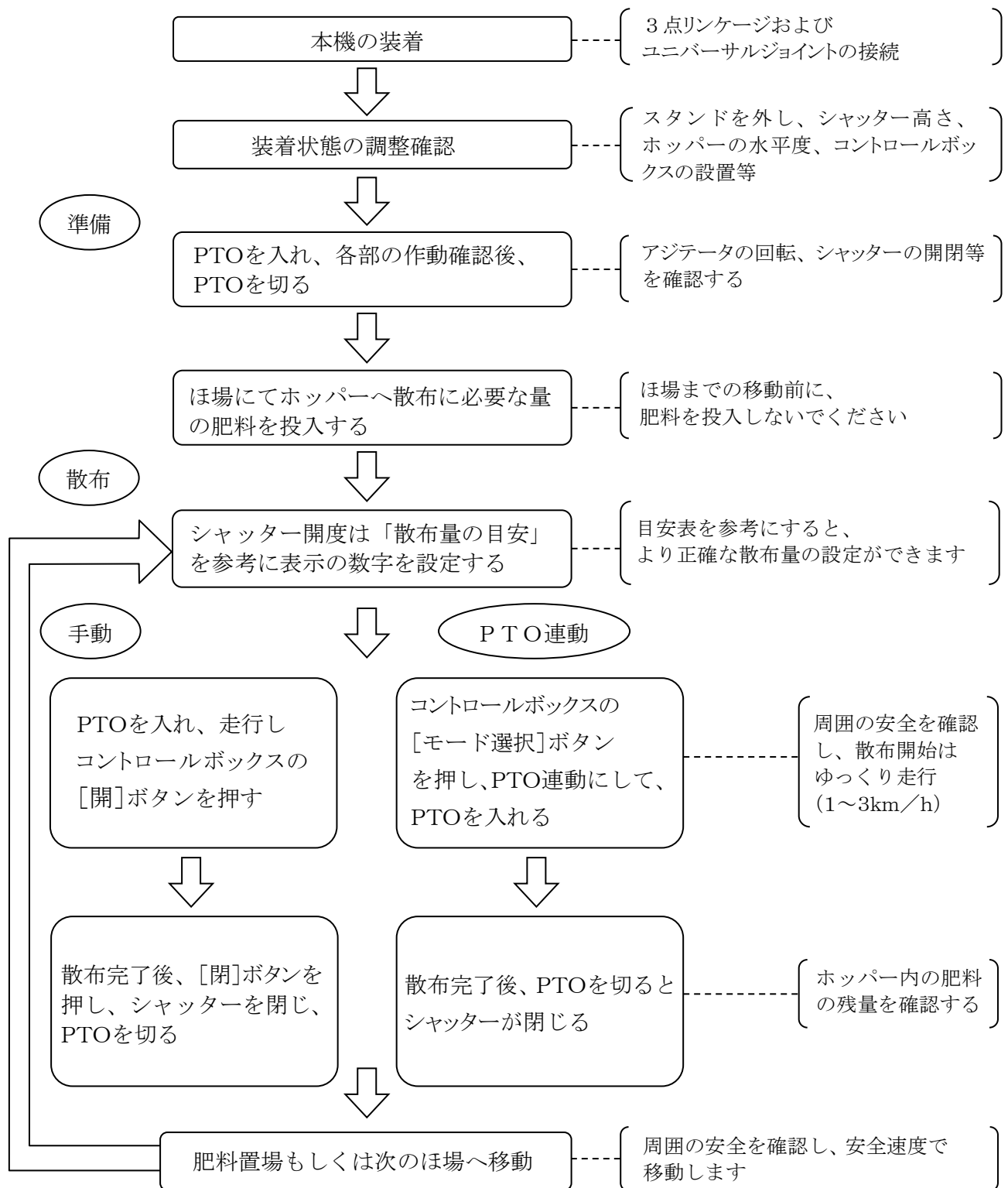
これを怠ると傷害発生のおそれがあります。

電動シャッター使用上の注意

- 作業前は、シャッターの開閉点検をしてください。
開閉の作動がスムーズでないときは、シャッター部の清掃を行ってください。
- 作業中にシャッター開度を調整すると少しの間散布量がばらつくため、できるだけ作業前に調整を行ってください。
- コントロールボックスの水濡れは故障の原因となります。必ず屋内に保管してください。

作業方法

1. 作業手順と要点



作業方法

散布肥料	開度	20	例2 30	40	例1 50	60	70	80	90	100
化成肥料 (粒状)	車速	4	16	70	178	605	—	—	—	—
	(Km/h)	5	13	56	142	484	—	—	—	—
		6	11	47	119	404	—	—	—	—
ヨウリン (砂状)	車速	4	43	147	338	—	—	—	—	—
	(Km/h)	5	34	118	270	—	—	—	—	—
		6	29	98	225	—	—	—	—	—
消石灰 (粉状)	車速	4	27	43	70	129	191	279	416	—
	(Km/h)	5	22	34	56	104	153	223	333	—
		6	18	29	47	86	128	186	278	—
低水分 コンポスト (比重: 0.3)	車速	4	—	—	—	29	63	104	140	203
	(Km/h)	5	—	—	—	23	50	83	112	162
		6	—	—	—	20	42	69	93	135

◆シャッター開度位置の選定

散布量の設定は、上表と同じ散布量の早見表を本機フタに貼付しておりますので、この数値を参考に開度を設定してください。

《例1》

消石灰を10アール当り70～128kg散布したい場合、作業速度を4km/hでシャッター開度を50にすると、10アールあたり70kgの散布量になります。作業速度を6km/hでシャッター開度を70にすると、10アールあたり128kgの散布量になります。

《例2》

化成肥料をシャッター開度30、作業速度4km/hで散布した場合、10アールあたり16kgの散布量になります。同じシャッター開度30で作業速度を6km/hにして散布すると、10アールあたり11kgの散布量になります。

注意

この早見表中の数値は一般に参考値としてお考えください。実際には肥料の種類、散布条件、ほ場条件等により、差異が生じる場合があります。最初に使用されるときは、目標の散布量の半分を目安として、2度播きすることをおすすめします。

警告

混合後の肥料は、散布量が大きく異なりますので、実際に散布を行いながら開度を設定してください。

2. 移動するときは

移動するときは、必ずスタンドを外し、本機を3点リンケージで地面から20cmの高さまで上げてから走行してください。



警告

- ①本機を装着して運転する場合は、周囲の条件に適した速度で行ってください。急発進・急ブレーキ・急ハンドルは絶対に行わないでください。
- ②カーブを曲がるときは、重心の変化や機械の幅に十分注意してください。

作業方法

3. 肥料について

- 肥料は湿気が少なく、乾燥後メッシュ度が均一で、塊や異物の混じっていないものをご使用ください。
- 湿った肥料やビニール片等の混入した肥料は、散布ムラの原因となりますので使用しないでください。

注意

湿った肥料は、ホッパー内でブリッジ現象やつまりを起こしやすく、またビニール片等は、アジテータに巻き付いたりして不均一散布の原因となります。

4. ホッパーに肥料を投入するときは

- ① 3点リンケージの位置を最下位まで下げ、肥料が投入しやすい状態にしてからトラクタのエンジンを停止し、肥料を徐々に投入してください。

警告

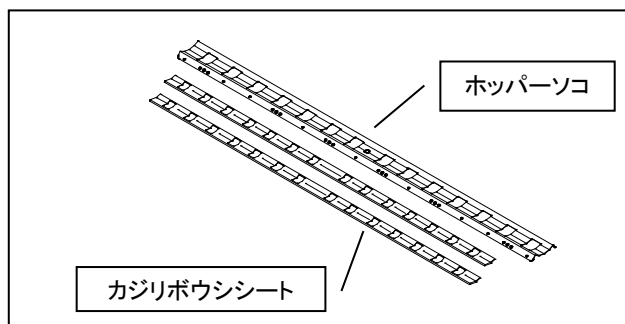
肥料をホッパーへ投入する時は、本機のフレーム部のパイプやスタンドに足をかけたり乗ったりしないでください。足を滑らせ転倒し、傷害を受ける危険があります。

- ② 肥料は散布に必要な適正量のみホッパーに投入してください。不必要な量の肥料は後作業にムダを発生させます。

注意

- 肥料は必ず、あらかじめ散布ほ場へトラック等で運んでおいてから散布作業の直前にホッパーへ投入するようにしてください。
- ホッパー内に肥料が入ったまま運搬すると、輸送中にホッパー内で圧縮され、ブリッジ現象による繰り出し不良や不均一散布、本機損傷の原因となります。

- 最大積載量を超えて投入すると、本機損傷の原因となります。
- カキガラ・ホタテガラ等の貝殻石灰は、本機の負荷が高いため作業できません。
- 肥料の含水率は30%以下にしてください。
- 硬い肥料等、肥料の種類によってはホッパーソコに貼付しているカジリボウシシートが損傷し、作業できません。



5. 肥料を混合するときは

- ① 肥料は比重の軽いものから順番に左右均一に投入してください。
参考：ケイフンとミネカルを混合する場合
先に比重の軽いケイフンから投入し、次にミネカルを投入してください。
- ② 肥料投入後、PTOを入れ1分間駆動することで混合完了となります。

注意

- ① 肥料には混合の適否があります。
必ずP28の表を参考に安全性を確認してから混合してください。
- ② 生石灰は、水と反応し可燃物を発火させるほどの熱を発生することがあります。水との接触は避けてください。
- ③ 尿素は空気中の水分を吸収し、他の混合物を硬化させる性質があります。混合は避け、尿素単肥として散布してください。同様に古く湿った肥料は避けてください。

作業方法

6. 散布作業の方法について

◆作業手順について

- ①PTOを入れ、発光ダイオードの数字を設定開度位置まで確実に開けてください。
- ②肥料が散布されるのが確認できたら、走行クラッチを入れ、走行を開始してください。

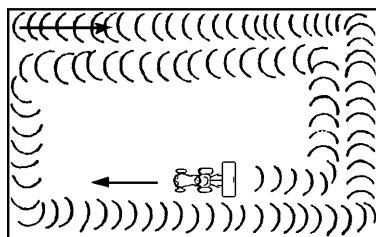
！警告

走行開始時には、ホッパー内に肥料を満載しているため、トラクタは重量バランスをくずしやすい危険な状態となっています。
急激な走行クラッチの接続はやめてください。

注意

より均一な散布を行うためには、散布作業中のトラクタの走行速度を一定に保つようにしてください。

- ③ほ場内での走行は、次図のように旋回しながら散布すると能率よく散布できます。



注意

ほ場が広い場合は、作業前にあらかじめホッパー容量と散布量を考慮のうえ、ほ場の各所に肥料袋を置いておくことで能率のよい作業が行えます。

！注意

散布作業に入る前には、後方に人や動物がいないことを確認してください。

注意

本機の作業時のPTO回転速度は $540\text{min}^{-1}(\text{rpm})$ です。

この回転速度以上で使用すると本機損傷の原因となります。

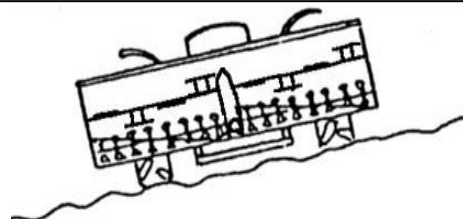
また、高速回転で急接続すると破損するおそれがあります。

注意

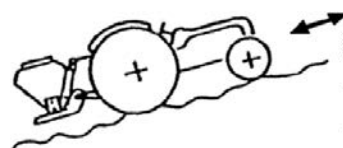
PTO連動時にトラクタの自動昇降機能を使用していると、PTOが高速回転のまま接続され、破損するおそれがあります。
PTO連動使用時は、PTOの回転数に注意してください。

7. 傾斜地での作業

傾斜地での散布作業は等高線に対して直角に走行するようにしてください。



斜面を横切の場合は散布物が片寄り、均等に散布作業ができません。



注意

- ・前輪荷重20%以上
- ・傾斜角10度以下

斜面に沿う場合は散布物の大きな片寄りがないため均等な作業ができます。

！警告

等高線に平行、または斜め走行や急旋回は横転の危険がありますので決して行わないでください。

作業方法

	硫塩硝尿石	過熔苦重	硫塩草	魚骨鶏堆緑	生消炭硫水炭ケ
	灰チッ	土焼	酸化木	肥・油カ	石石カ
	安安安素ソ	石ン石ン	リリ灰	ス粉ン肥肥	灰灰ル土土土ル
硫塩硝尿石	安 安 安 素 ソ	▲▲○×	○×○○	○○▲▲▲	××▲○×××
灰チッ	▲▲▲×	▲×▲○	▲▲×	○○▲▲▲	××▲▲×××
過	▲▲▲×	▲×▲▲	▲▲×	×▲×××	××▲▲×××
熔	○▲▲▲	▲○▲○	▲▲▲	▲○▲▲▲	▲▲▲▲▲▲▲
リ	×××▲	×○×▲	▲▲○	○○○○▲○	○○○○×○○○
土					
過					
重					
土					
焼					
リ					
石					
ン					
石					
ン					
硫					
酸					
カ					
リ					
リ					
灰					
ス					
粉					
ン					
肥					
肥					
生					
消					
炭					
石					
灰					
ル					
土					
土					
土					
ル					

《記号の見方》

○印：混合しても良いもの

▲印：混合したらすぐに散布すべきもの

×印：混合してはいけないもの

『肥料便覧より』

作業前の点検について

作業の安全確保と、故障を未然に防ぐには、機械の状態をよく知っておくことが大切です。作業前の点検は、欠かさず行ってください。

警告

- 取り外したカバー類は必ず取り付けてください。衣服が巻き込まれたりして危険です。
- 点検・整備をするときはPTOを切り、エンジンを停止し、回転部が止まってから行ってください。

点検一覧表

No.	項 目	内 容	参照 ページ	チェック
1	ユニバーサルジョイント	取り付けが完全か	19	
2	各部ボルト・ナット	緩み・ガタツキがないか	—	
3	アジテータ	異常に摩耗していないか	30	
4	各部の回転	アジテータの回転は正常か	30	
5	電動シャッターの作動	スムーズかつ開閉が確実か	23	
6	各部への注油・グリスアップ	各部への注油は十分か	31	

異常が認められない場合は、PTOをアイドリング回転速度で、5分程度回転させて、ギヤオイルの攪拌を行ってから、作業を始めてください。

※初回の作業はウォームギアのならし運転を行う必要があるため、最初の20分程度は肥料の投入量を半量にしてください。

点 検 メ モ

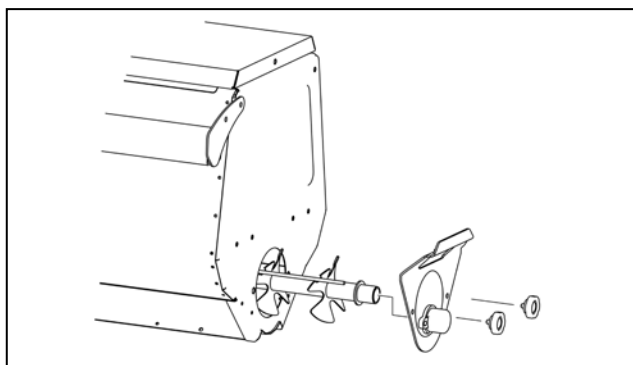
簡単な手入れと処置

！ 警告

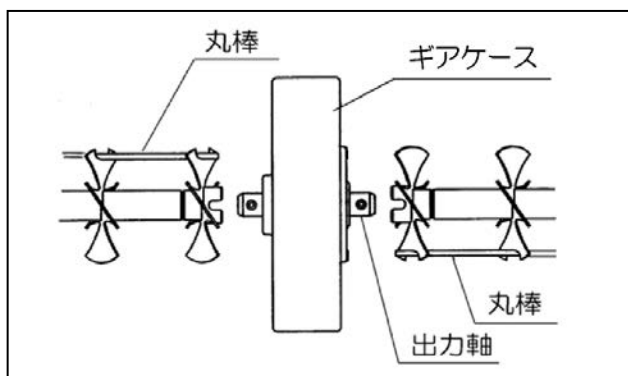
- ①各部の調整をするときは、PTOを切りエンジンを停止し、回転部が完全に止まってから行ってください。
- ②取り外したカバー類は、必ず取り付けてください。

1. 日常の管理について

- 異常の早期発見、錆の発生防止などのために、作業終了後は常にMixソーワの清掃を行ってください。
- 残った肥料の取り出しは、次のようにアジテータを外して行います。



- アジテータの組付けは、次図のように左右のアジテータの丸棒が互いに反対側にくるように組付けてください



！ 警告

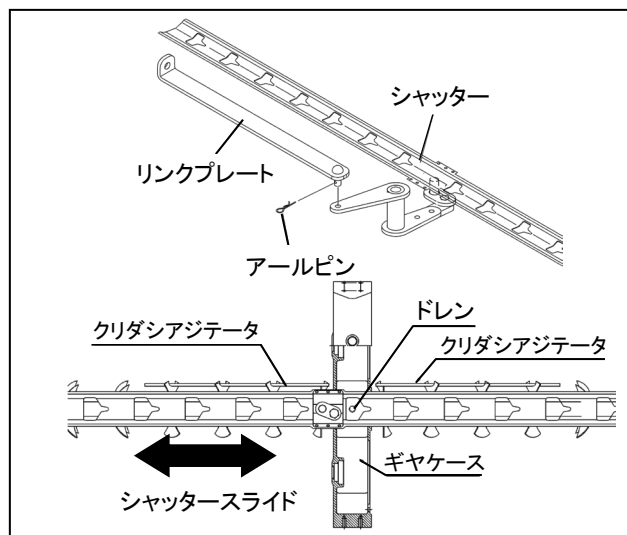
残った肥料の取り出しや掃除をするときはPTOを切り、エンジンを完全に停止してから行ってください。

- シャッターに散布物が付着していると、シャッター操作がスムーズに行えず、正確な散布ができなくなりますので、常にきれいにしておいてください。
- ヒモなどがアジテータに巻き付いていないか、また紙ビニール片、石などが散布穴をふさいでいないかを確認してください。
- ギヤケースのオイルはISO VG150相当を使用し初回50時間後、その次からは200時間毎にオイル・添加剤の全量を交換してください。

※新車時は以下のオイルが入っています。

オイル	シェル オマラS2G 150	1 ℓ
添加剤	スミコー モリコンクM100	0.1ℓ

- オイルを排出するときは、リンクプレートのアールピンを外し、シャッターがスライドできる状態にした後、シャッターの穴とギヤケースのドレンを合わせて、ドレンボルトを外してください。



2. 長期格納時の手入れ

- 十分水洗いをした後、水を拭き取って日光で乾かしてください。
(底板とシャッターの間に散布物が残らないように外す、またはスライドさせて取り除いてください。)

簡単な手入れと処置

- 塗装の剥がれているところは塗り直し、メッキが落ちている部分はグリスなどを塗布して防錆の措置をしてください。
- 機体をよく点検し、摩耗、損傷、または紛失した部分がないかを確認し、部品の交換、補充を行ってください。
- アジテータ、シャッターなどの各作動部分が正しく作動するかを点検し、異常があれば調整してください。
- 各ボルトの増し締めと、ネジ部の錆発生防止のためにオイルを塗布してください。
- 各注油、グリスアップ箇所への十分な注油、グリスアップを行った後、各部を作動させてオイル、グリスをなじませてください。

以上の事柄について点検を実施し、雨や直射日光の当たらない風通しの良い所へ保管してください。

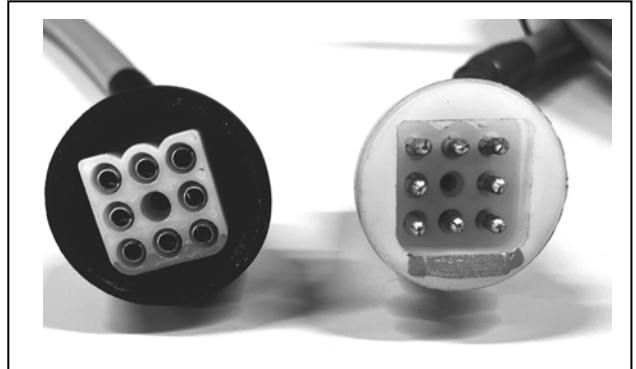
☆アジテータを取り出した場合には、その都度、アジテータの取り付け部とミッションの出力軸にグリスを塗布してから、組付けてください。

3. コネクタの保管と清掃について

コントロールボックスを外して保管する場合は、作業機側コネクタにゴミが混入しないように、コネクタ先端に付属のハーネスキャップを取り付けてください。

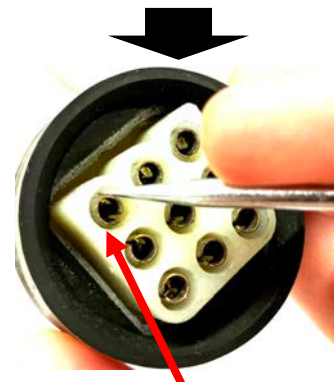


泥などが入るとコネクタの接続部が固くなります。泥などが入った場合は、エアースプレーで掃除し、綿棒などでコネクタのゴムの内側にシリコングリスを塗布してください。



コネクタをよじりながら脱着すると、コネクタのメス端子が開いて、オス端子と接触不良を引き起こします。

シャッターが開閉動作を繰り返す場合は、メス端子横に尖ったドライバーを差し込み開いたメス端子を閉じてください。



ドライバーを差し込んで閉じたメス端子

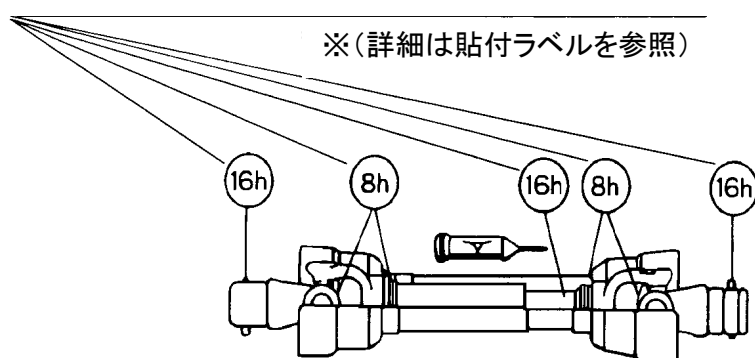
簡単な手入れと処置

4. 各部への注油・グリスアップ

次図の箇所へ指定時間(h)毎に注油、グリスアップしてください。

〈グリスアップ〉ユニバーサルジョイント各部

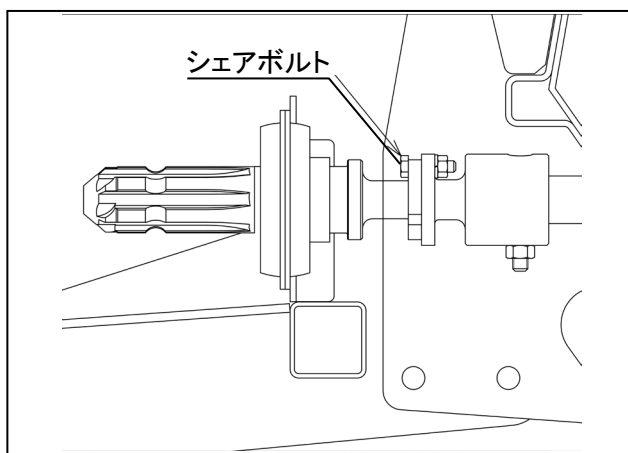
※(詳細は貼付ラベルを参照)



5. シェアボルトの交換

(MX1801・MX2201)

MX1801・MX2201にはコンゴウアジテータに急激な過負荷が作用した場合、本機の損傷を防ぐための安全装置としてシェアボルトを次図の位置に装備しています。過負荷が作用したとき、このシェアボルトがせん断され、本機主要部の損傷を防止します。



◆シェアボルトおよびナットのサイズ

- ・シェアボルト M6×25(8T)
全ネジ 1個
部品コード 01118-5060-250
- ・ナイロンナット M6 1個
部品コード 02311-4001-060

⚠ 注意

- シェアボルトの交換は必ずエンジンを停止し、回転部が止まってから行ってください。
- シェアボルトは、指定のもの以外は絶対に使用しないでください。

簡単な手入れと処置

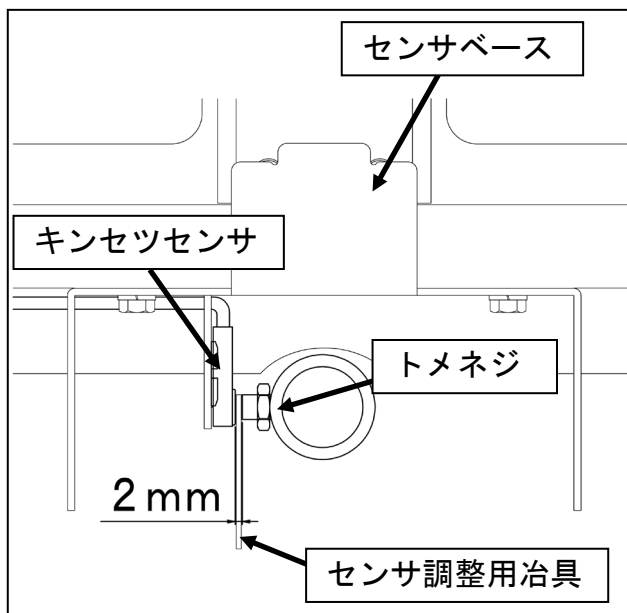
6. センサの調整

警告

トラクタのエンジンをかけたまま調整すると、重大な事故が起こる可能性がありますので、必ずPTOを止め、エンジンを停止した状態で行ってください。

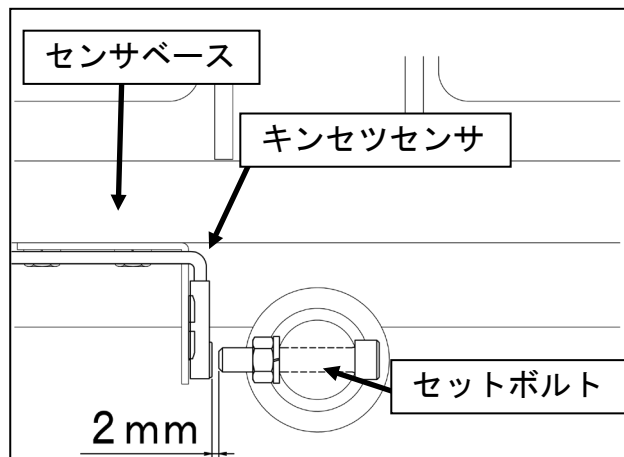
◆JBS-2での調整方法

キンセツセンサとトメネジの距離が2mmとなるようにセンサベースを調整し固定してください。このとき付属のセンサ調整用治具を使用すると調整しやすくなります。



◆その他での調整方法

キンセツセンサとセットボルトの距離が2mmとなるようにセンサベースを調整し固定してください。



※コントロールボックスの電源が入った状態でキンセツセンサが反応すると、内部のLEDが赤く点灯します。

※キンセツセンサ調節後は、必ずPTO軸を回し、キンセツセンサがトメネジ(またはセットボルト)に反応するか確認してください。

不 調 診 断

不 調 内 容	診 断	処 置	参 照 ペ ー ジ
●散布が片寄る	●斜面の等高線上に走行している	●等高線に対し、直角方向に走行してください	27
●散布量が一定しない	●シャッター開口部に異物が絡まっている ●湿った肥料が詰まっている	●エンジンを停止し、異物を除去してください ●乾燥した肥料に交換してください	30 26
●ユニバーサルジョイントは回るが、肥料が散布できない	●ホッパー内で肥料がブリッジ現象を起こしている ●ウォームギヤの破損	●金棒などを利用して均等にならしてください ●販売店へ連絡してください	26
●ユニバーサルジョイントは回るが重く、ミッションから異音がする	●ウォームギヤの焼き付き	●販売店へ連絡してください	—
●ギアケースから異音がする、またはギアケースが異常に熱い	●オイルの量が適当でない ●肥料の投入量が多い	●オイルを規定量入れてください ●肥料の投入量を減らしてください	30 26
●アジテータ付近から異音がする	●アジテータハネなどがゆがみ、ホッパーに接触している	●アジテータを外して接触部を修正してください	30
●シャッターが開かない	●電源ランプが点滅する ●電源のヒューズが切れている ●ハーネスが断線している ●パルスモータが故障している	●異物がかみ込んでいます異物を取り除いてください ●ヒューズを交換してください ●ハーネスを点検してください ●パルスモータを交換してください	— 21 — —

付 表

1. 主要諸元

型	式	MX1601	MX1801	MX2201
名	称	Mixソーワ		
装	着	方	法	
		3点リンク直装 カテゴリ0・Ⅰ ※1	3点リンク直装 カテゴリⅠ・Ⅱ ※1	
駆	動	方	法	
		PTO駆動(作業回転速度 540min ⁻¹ [540rpm])		
散	布	方	式	
		自然落下式		
適 応 ト ラ ク タ (kW)		14. 7～29. 4 (20～40ps)	18. 4～36. 8 (25～50ps)	22. 0～44. 1 (30～60ps)
機 体 寸 法	全 長 (mm)	750 ※2	890 ※2	890 ※2
	全 幅 (mm)	1690	1910	2360
	全 高 (mm)	835 ※2		
質 量 (kg)		151 ※3	180 ※3	210 ※3
散 布 幅 (m)		1.6	1.8	2.2
ホ ッ パ ー 容 量 (ℓ)		270	310	380
作業能率 (分／1 0 a)		11～21	10～19	8～15

※1 装着方法は他に日農工規格特4Pオートヒッチの適応機種もあります。

※2 ヒッチ・スタンドを含んだ数値です。

※3 ヒッチ・スタンド・ユニバーサルジョイントを含んだ数値です。

この主要諸元は改良などにより、予告なく変更することがあります。

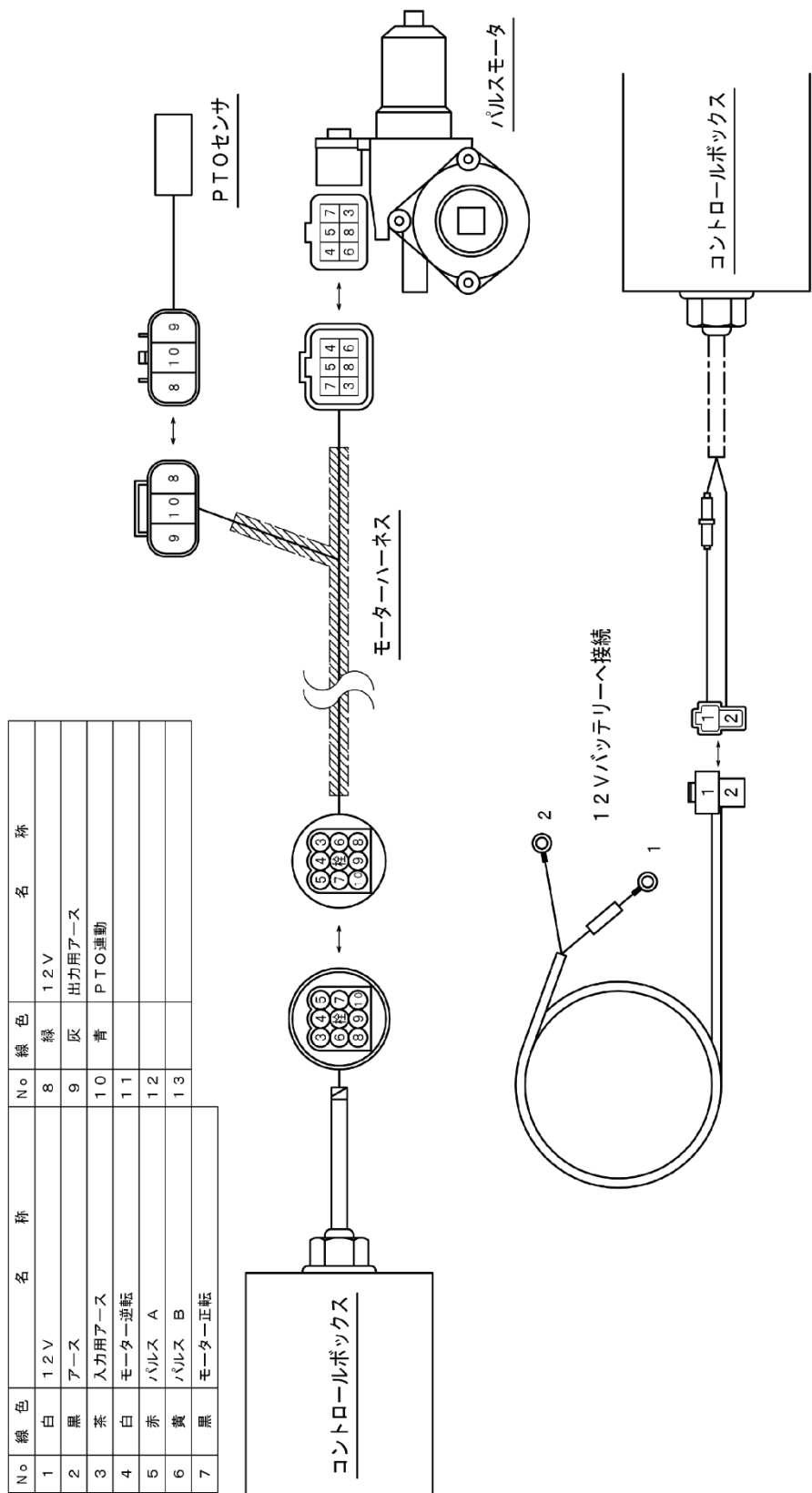
2. 主な消耗部品

部 品 名 称	部 品 コ ー ド	備 考
クリダシアジテータ	41108 2310 003	MX1601
コンゴウアジテータA	47103 1210 011	MX1601
コンゴウアジテータB	47103 1220 011	MX1601
クリダシアジテータ	41108 1310 003	MX1801
コンゴウアジテータA	47179 1210 000	MX1801
コンゴウアジテータB	47179 1230 000	MX1801
クリダシアジテータ	41107 1310 002	MX2201
コンゴウアジテータA	47118 3210 000	MX2201
コンゴウアジテータB	47118 3220 000	MX2201
シェアボルトM6×25 (8T・ゼンネジ)	01118 5060 250	MX1801・2201
ナイロンナットM6	02311 4001 060	MX1801・2201
カクハンパドル	47103 1250 012	シリーズ共通

付 表

部 品 名 称	部 品 コ ー ド	備 考
ロールピン10×45	03110 3100 450	シリーズ共通
ロールピン6×45	03110 3060 450	シリーズ共通
ブッシュ	04751 0132 200	シリーズ共通

3. 回路図



※各配線の線色は予告なく変更になる場合があります。